

ヒメウ

学名	Phalacrocorax pelagicus Pallas, 1811	
目名	ペリカン目	
目名学名	PELECANIFORMES	
科名	ウ科	
科名学名	Phalacrocoracidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I B (EN)



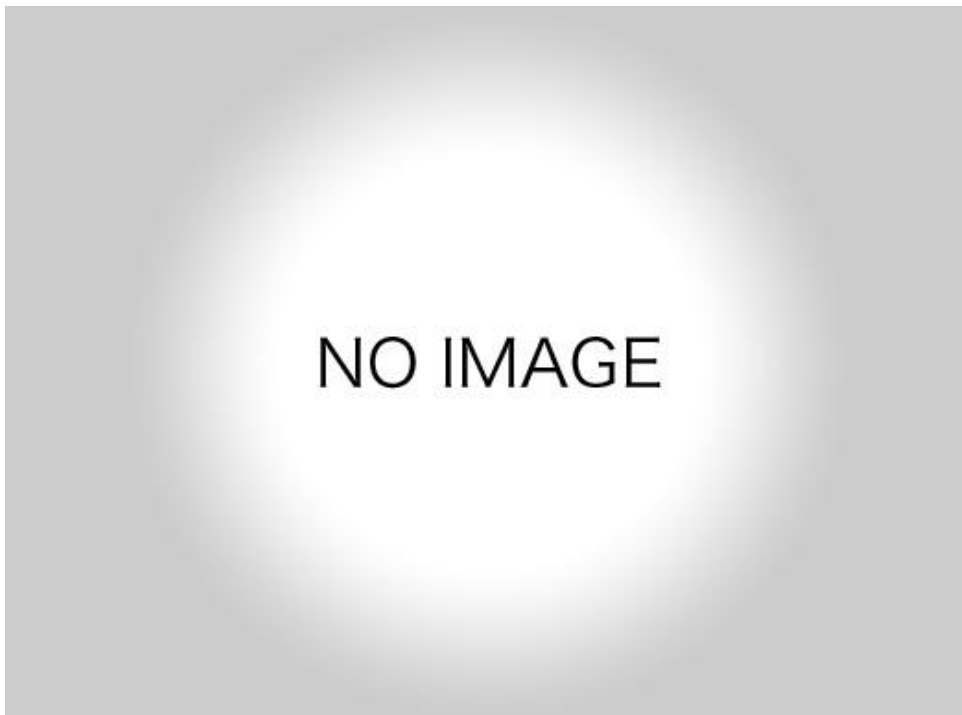
[選定理由]

全国的に個体数が少なくなっている

県内分布	県下全域の海岸部に、冬に少数が飛来する。
分布域	ベーリング海を含む北部太平洋に分布する。
世界的分布	
生息環境	繁殖地は、北日本の5か所の島のみで、繁殖個体数は250羽以下である。非繁殖期には、日本各地の岩礁性の海岸で見られる。主に魚類を食べるが甲殻類も食べる。
現状	大分では、近年、見られる頻度が低くなってきている。
備考	希少鳥獣

サンカノゴイ

学名	Botaurus stellaris (Linnaeus,1758)	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	サギ科	
科名学名	Ardeidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：I B (EN)



[選定理由]

県内分布	アシ原にごく希に飛来する冬鳥。
分布域	北海道北部および本州中部以北の数か所で繁殖。繁殖地以外では冬鳥。
世界的分布	中国東北部, ウスリー, シベリア南部, サハリンで繁殖。中国南部で越冬。
生息環境	広いアシ原に生息し, 魚類, 両生類, 小型哺乳類などひろく動物質の餌をとる。アシ原の中に生息するため, 観察することが難しい。
現状	県内では, 5~10年に一回程度, 宇佐と大分で観察記録がある。
備考	希少鳥獣

ヨシゴイ

学名	Ixobrychus sinensis (Gmelin,1789)	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	サギ科	
科名学名	Ardeidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： 準 (NT)



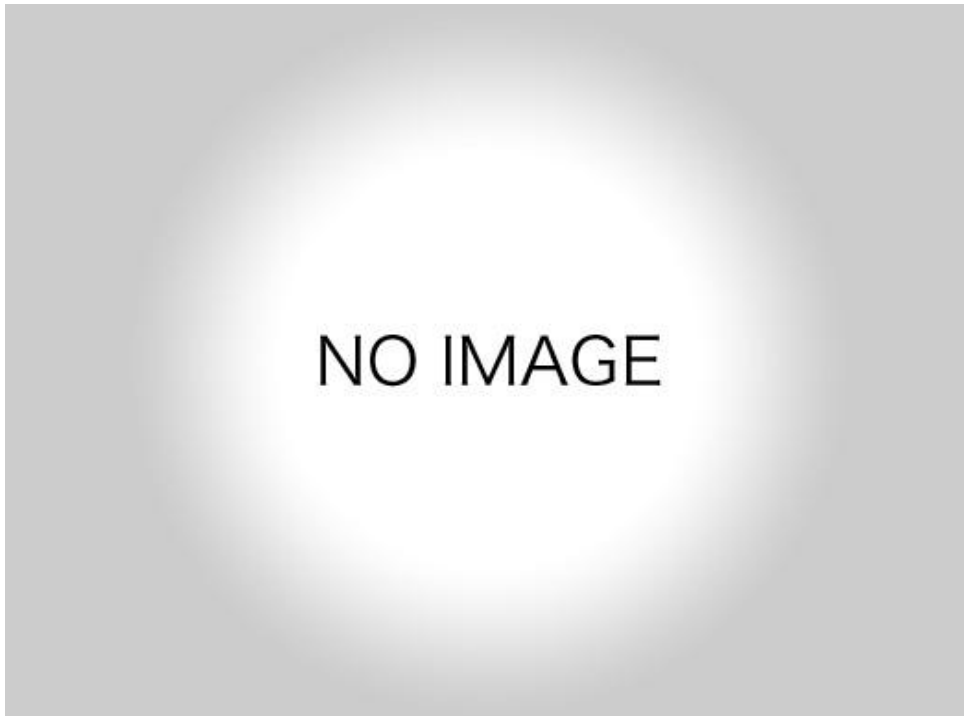
[選定理由]

全国的に、河川改修によるアシ原の消失や湖沼の埋め立てなどのために、生息に適した環境が悪化、減少し、生息個体数が激減している。県内では繁殖期に観察される個体数が減少した。

県内分布	平野部の河川やため池などの湿地帯に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州で夏鳥。奄美諸島以南では冬鳥。
世界的分布	中国全域, 朝鮮半島, 台湾で夏鳥。東南アジア全域で冬鳥あるいは留鳥。
生息環境	夏鳥として平野部の河川や湖沼, ため池, 湿地のヨシ・ガマ地帯に生息し, 繁殖する。小魚, 両生類, 甲殻類などを食べる。
現状	かつては県内各地で観察されたが, 近年は数年に1回程度しか観察されないようになった。
備考	

ミゾゴイ

学名	Gorsachius goisagi (Temminck,1835)	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	サギ科	
科名学名	Ardeidae	
カテゴリー	大分県: IB(EN)	環境省: IB(EN)



[選定理由]

日本だけで繁殖する固有種であるが、生息個体数は少ない。森林開発により繁殖に適した環境が減少している。全国的に個体数が少なくなっている。

県内分布	低山の溪流部に夏鳥あるいは越冬。
分布域	本州(新潟, 関東以南), 四国, 九州で夏鳥。九州以南では越冬。
世界的分布	日本のみで繁殖, 中国南部, 台湾, フィリピンで越冬
生息環境	平地から低山の混交林の沢筋で繁殖し, うっそうとした薄暗い森林中の溪流で甲殻類や昆虫を食するが, 個体数が少なく, 夜行性でもあるため, その生態は不明な部分が多い。
現状	県内各地で観察記録がある。夜行性であるため, 観察される機会が少ない。
備考	国際自然保護連合:IB, 希少鳥獣

チュウサギ

学名	Egretta intermedia (Wagler,1829)	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	サギ科	
科名学名	Ardeidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)



【選定理由】

営巣地となる竹林や雑木林が、開発などにより減少し、個体数が減少している。農薬汚染によるエサの減少も考えられ、全国的にも個体数が急激に減少している。

県内分布	田園地帯, 水田, 湿地などに夏鳥。
分布域	本州, 四国, 九州で繁殖。琉球諸島では冬鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国南部で繁殖, フィリピン, インドネシアで越冬。
生息環境	平野部の草地, 水田, 川岸, 湿地などに夏鳥として生息し, コサギ, ダイサギなどとともに平地や丘陵の林で集団営巣する。昆虫類, 小型魚類, 甲殻類, 両生類, 爬虫類などを食べる。
現状	集団営巣地は, 悪臭や騒音などのために近隣住民から苦情が出て, 繁殖妨害や有害鳥獣駆除をされることがある。
備考	

カラシラサギ

学名	Egretta eulophotes (Swinhoe,1860)	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	サギ科	
科名学名	Ardeidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：準 (NT)



[選定理由]

県内分布	海岸部の湿地や河川でごく希な冬鳥または旅鳥。
分布域	全国各地でごく希に渡来する冬鳥または旅鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国南部の限定された地域で繁殖, 朝鮮半島南部, 中国南部, 東南アジアで越冬。
生息環境	干潟, 河口, 水田でごく希に飛来する。
現状	種の総個体数が極めて少ない。主な生息地である干潟が開発により減少している。県内では, 杵築で数回の飛来が観察されたのみ。
備考	国際自然保護連合:II

クロサギ

学名	Egretta sacra (Gmelin,1789)	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	サギ科	
科名学名	Ardeidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

海岸部の岩棚で繁殖するが、磯釣りなど人の接近による繁殖への影響が懸念される。生息数が減少している。

県内分布	全域の岩場, 干潟, 河口などに留鳥。
分布域	本州中西部, 四国, 九州, 琉球諸島の海岸部で留鳥。
世界的分布	朝鮮半島南部, 中国南部以南の東南アジア全域で留鳥。
生息環境	海岸の岩場, 干潟, 砂浜に生息し, 魚やカニ, 貝類などを食べる。繁殖は局地的である。
現状	観察頻度が少なくなっている。県内では白色型と黒色型の両方が生息する。
備考	

コウノトリ

学名	Ciconia boyciana Swinhoe,1873	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	コウノトリ科	
科名学名	Ciconiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：I A (CR)



[選定理由]

県内分布	河川や湿原などにごく希に冬に飛来する鳥。
分布域	全国各地にごく希に飛来する冬鳥または旅鳥。
世界的分布	中国東北部・北部で繁殖，中国南部で越冬。
生息環境	水田，湿原，干潟，河川，湖沼などに飛来する。魚類，カニ，カエルなどを採食する。
現 状	種の総個体数がたいへん少ない。県内では，2008年に始めて飛来した。
備 考	国際自然保護連合：IB，ワシントン条約附属書I，国内希少野生動植物種，特別天然記念物，希少鳥獣

ヘラサギ

学名	Platalea leucorodia Linnaeus,1758	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	トキ科	
科名学名	Threskiornithidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：情報不足 (DD)



[選定理由]

県内分布	河川, 湖沼などにごく希に飛来する冬鳥。
分布域	全国各地にごく希に飛来する冬鳥または旅鳥。
世界的分布	中国東北部・北部で繁殖。中国南部で越冬。
生息環境	水田, 湿原, 干潟, 河川, 湖沼などに飛来する。魚類, カニ, カエルなどを採食する。
現状	種の総個体数が非常に少ない。県内では, 中津, 宇佐, 大分, 佐伯で観察記録があるが滞在日数は短い。
備考	ワシントン条約附属書II

クロツラヘラサギ

学名	Platalea minor Temminck & Schlegel, 1849	
目名	コウノトリ目	
目名学名	CICONIIFORMES	
科名	トキ科	
科名学名	Threskiornithidae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： I A (CR)



【選定理由】

種の総個体数が約1700羽と極めて少なく、種の存続が危惧される。

県内分布	河川や湿地などにごく希に飛来する鳥。
分布域	全国にごく希に飛来する冬鳥。九州北部には毎年数羽が越冬する。
世界的分布	中国東部・南部、朝鮮半島の数か所の岩礁だけで繁殖。中国南部、ベトナム、日本で越冬。
生息環境	水田、湿原、干潟に冬鳥として飛来する。浅い水面で、嘴を半開きにして左右に振りながら歩き回り、嘴に触れた魚や干潟の泥中の小動物を食べる。
現状	県内では、杵築、佐伯、宇佐で観察記録がある。
備考	国際自然保護連合:IB, 希少鳥獣

コクガン

学名	Branta bernicla (Linnaeus,1758)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

本種の総個体数は 5,000羽と少なく、日本の越冬個体数は数百羽、大分県には数年に1度数羽が飛来し越冬する。大分県は日本の越冬地のほぼ南限である。

県内分布	別府(関の江), 杵築(守江湾), 佐伯(番匠川)に飛来する冬鳥。
分布域	北海道, 本州北部の太平洋岸で冬鳥, 東北以南では希な冬鳥。
世界的分布	シベリア北部で繁殖, 中国黄海沿岸で越冬
生息環境	大きな湖沼や河口や内湾部などの海上で越冬する。アマモ, アオリ, アオサなどの海藻や, マコモなどの水草を食べる。
現状	数年に1回程度, 数羽が観察されるが, 最近は, 観察頻度が少なくなっている。
備考	天然記念物, 希少鳥獣

マガン

学名	Anser albifrons (Scopoli,1769)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：準 (NT)



[選定理由]

県内分布	河川や溜池・湿地, 干潟に希に飛来する冬鳥。
分布域	本州(宮城県伊豆沼, 石川県片野鴨池, 島根県斐伊川河口など)に冬鳥。
世界的分布	シベリア北部で繁殖, 朝鮮半島, 中国中部で越冬。
生息環境	局地的に河口や内陸部の湖沼, 湿地, 水田, 干潟に生息する。早朝に群れて飛び立ち, 水田で落穂を食べる。
現状	全国数か所の集団越冬地周辺以外では見られることが少ない。大分県では, 5年に1回程度の飛来記録があるのみ。
備考	天然記念物

ヒシクイ

学名	<i>Anser fabalis</i> (Latham, 1787)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 亜種ヒシクイ: II (VU) 亜種オオヒシクイ

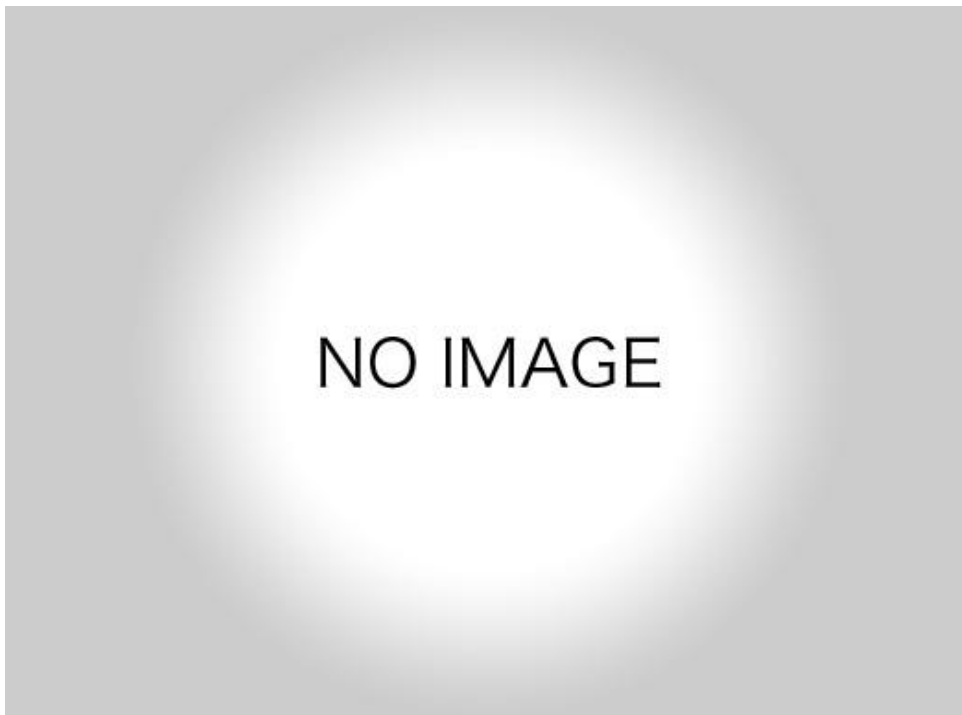


[選定理由]

県内分布	河川や溜池・湿地, 干潟に希に飛来する冬鳥。
分布域	亜種ヒシクイ(<i>A. f. serraurostris</i>)は, おもに太平洋岸に飛来する冬鳥。亜種オオヒシクイ(<i>A. f. middendorffii</i>)はおもに日本海側に飛来する冬鳥。
世界的分布	シベリアで繁殖, 朝鮮半島, 中国中部・南部で越冬
生息環境	局地的に湖沼, 湿地, 河川, 水田, 海岸に生息する。早朝に群れで飛び立ち, 水田や湖沼などで落穂や水草, その根などを食べる。
現状	全国数か所の集団越冬地周辺以外では見られることが少ない。県内では, 10年に1回程度飛来し, 中津, 宇佐, 杵築, 大分で観察された記録がある。亜種の区別をした記録はほとんどない。
備考	天然記念物, 希少鳥獣

アカツクシガモ

学名	Tadorna ferruginea (Pallas,1764)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 情報不足 (DD)



[選定理由]

県内分布	干潟, 湿地にごく希に飛来する冬鳥。
分布域	中部地方以南, おもに九州に飛来する希な冬鳥。
世界的分布	中国内陸部で繁殖, 中国南部以南で越冬。
生息環境	内陸の湖沼, 河川, 干潟, 広い水田などに希な冬鳥として飛来する。畑や乾燥した場所で草を食べる。
現状	全国的に飛来する頻度や数が極めて少ない。県内では, 宇佐, 杵築, 大分で観察された記録がある。
備考	

ツクシガモ

学名	Tadorna tadorna (Linnaeus,1758)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県: IB(EN)	環境省: IB(EN)



[選定理由]

大分県に飛来する頻度や数が少なく、採餌場所である干潟が埋め立てや河川改修などにより悪化し、その面積が減少している。

県内分布	海岸部の干潟および湿地に希な冬鳥。
分布域	九州で冬鳥。中部以南では希な冬鳥。
世界的分布	中国東北部で繁殖, 中国南部で越冬。
生息環境	河川河口部, 湖沼, 干潟や湿地に生息し, 甲殻類, 海藻類などを食べる。
現状	日本の主な越冬地は九州北部で, 1,000羽より少ない。中津, 宇佐, 西国東, 杵築, 大分, 日田で毎年数回の観察記録がある。
備考	希少鳥獣

オシドリ

学名	<i>Aix galericulata</i> (Linnaeus,1758)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：情報不足 (DD)



【選定理由】

東アジアが主な生息地で、その中でも日本での越冬数が半数を超す。県内には3,000羽以上が越冬するが、これは本種の総個体数の約6%に相当する。近年、里山の開発などにより森林が減少し、主な生息地である暗いため池や溪流の消滅が懸念される。

県内分布	丘陵地から山地の溜池、ダム湖、森林地帯の溪流で越冬。少数が森林地帯で繁殖。
分布域	北海道、本州北部では夏鳥、琉球諸島以北で繁殖するが、本州中部以南ではおもに冬鳥。
世界的分布	日本と中国東北部、ウスリーで繁殖、日本と中国南部、台湾で越冬。
生息環境	丘陵地から山地の溜池や森林地帯の溪流沿いと、その周辺の森林に生息する。水面に樹木が張り出たようなやや薄暗い水面を好み、開けた水面にはあまり出てこない。夕方になると、餌場となる森林地帯に飛んで行き、カシやシイなどの木の実を食べる。
現状	近年、住宅開発などの里山の開発により、溜池や周辺の森林が減少している。
備考	

トモエガモ

学名	<i>Anas formosa</i> Georgi,1775	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

開発により、自然度の高い湖沼が減少し、越冬環境が悪化しているため、個体数が減少している。大分県に飛来する個体数は少ない。

県内分布	河川、湖沼、溜池などに冬鳥。
分布域	本州中西部、四国、九州の湖沼、河川、干潟に冬鳥。
世界的分布	シベリアで繁殖、中国南部で越冬。
生息環境	河川で昼間は休息し、夕方になると、水田や河川に飛んでいき、イネ科植物などを食べる。周辺に木立がある自然度の高い湖沼を好む。
現状	ほぼ毎年、県内数か所に、数羽から数十羽が飛来する。
備考	国際自然保護連合：Ⅱ、ワシントン条約附属書Ⅱ、希少鳥獣

アカハジロ

学名	Aythya baeri (Radde,1863)	
目名	カモ目	
目名学名	ANSERIFORMES	
科名	カモ科	
科名学名	Anatidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 情報不足 (DD)



[選定理由]

県内分布	県北の池や河川に飛来する希な冬鳥。
分布域	全国にまれに飛来する冬鳥。
世界的分布	ウスリー、中国東北部で繁殖。中国南部以南で越冬。
生息環境	湖沼、河川に生息する。水面採餌、潜水採餌の両方で、水草やその根、イネ科植物の種子などを食べる。
現状	県内では、5年に1回程度、単独で飛来し、県北の池や河川を移動しながら越冬する。種の総個体数が減少している。全国的に毎年数個体しか飛来しない。
備考	国際自然保護連合: I B

ミサゴ

学名	Pandion haliaetus (Linnaeus,1758)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)



[選定理由]

魚類の化学的汚染により、世界的に個体数が減少している。県内の繁殖個体数は大変少なく、釣り人の営巣地への接近により繁殖活動が妨害される危険性が高い。

県内分布	全域の海岸部, 大きな河川, 大きなダム湖に生息する留鳥。
分布域	北海道では夏鳥, 本州, 四国, 九州, 琉球諸島で留鳥。
世界的分布	中国東北部, サハリン, カムチャツカで繁殖, 中国南部, フィリピンでは留鳥。
生息環境	海岸部, 河口, 湖沼などに生息し, 大木の樹上や岩や崖の上で営巣する。水面を泳ぐ魚を空中から取って食べる。
現状	県内の繁殖個体数は数十羽程度と推定される。冬季は越冬個体が増加する。
備考	ワシントン条約附属書II

ハチクマ

学名	Pernis apivorus (Linnaeus,1758)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)



[選定理由]

個体数が非常に少ない。営巣に用いる低山帯の高木が減少している。

県内分布	低山の林に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国の丘陵から低山帯では夏鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国東北部で繁殖。フィリピン, ベトナムで越冬。
生息環境	成熟した森林の樹上に営巣し, ハチ類の幼虫やサナギを巣ごととって食べるが, トカゲ, ヘビなども食べる。
現状	繁殖期の個体数は数十羽程度と推定される。秋の渡りの時期には合計1000羽程度が西に渡っていく。
備考	ワシントン条約附属書II

オオタカ

学名	Accipiter gentilis (Linnaeus,1758)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)



[選定理由]

繁殖地である里山域の森林が開発されたり樹種変換が行われ、繁殖に適した環境が減少している。飼育や剥製にするための捕獲圧も大きい。

県内分布	県内全域の平地から低山帯に生息する冬鳥。
分布域	北海道, 本州では留鳥。四国, 九州では冬鳥。
世界的分布	種オオタカは, ウスリー, シベリア, カムチャツカで留鳥。朝鮮半島, 中国南部で越冬。日本に生息する亜種オオタカ(A. g. fujiyamae)は, 日本固有の亜種。
生息環境	平地から低山帯の混合林に生息する。巣は, アカマツなどの針葉樹の大木に作る。林縁や開けた農耕地などで, ハト, カモ類など中型の鳥類を捕食する。
現 状	以前は冬鳥であったが, 近年県内数か所で繁殖が確認されている。繁殖期の個体数は十羽よりも少ないと推定される。
備 考	ワシントン条約附属書Ⅱ, 国内希少野生動植物種, 希少鳥獣

ツミ

学名	Accipiter gularis (Temminck & Schlegel, 1844)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



【選定理由】

森林開発などにより生息環境が悪化している。県内での繁殖期の記録は少なく、冬の観察頻度も減少している。

県内分布	平地から山地の林に希にみられる留鳥。
分布域	亜種ツミ(A. g. gularis)は、北海道、本州、四国、九州の平地から亜高山の森林地帯に留鳥。奄美諸島以南では冬鳥。南西諸島では別亜種リュウキュウツミ(A. g. iwasakii)が留鳥。
世界的分布	朝鮮半島、中国東北部で繁殖、中国南部、東南アジアで越冬。
生息環境	平地から亜高山の森林に生息し、小型の鳥類やネズミ、トカゲ、昆虫などの小動物を捕食する。
現 状	繁殖期の個体数は数十羽程度と推定される。
備 考	環境省レッドリストは、亜種リュウキュウツミ(A. g. iwasakii)は準、大分に生息する亜種ツミは、掲載なし。種ツミはワシントン条約附属書Ⅱ

ハイタカ

学名	Accipiter nisus (Linnaeus,1758)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

近年、全国的に個体数が減少している。大分県内でも越冬個体数が減少している。

県内分布	平地部から山地の林や農耕地に冬鳥。
分布域	北海道, 本州中部以北の平地から亜高山帯の林で繁殖, 全国の森林や平地部の林で冬鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国東北部, シベリアで繁殖, 中国中部以南で越冬。
生息環境	丘陵から亜高山の森林の樹上で繁殖する。おもに森林内で, 小・中型の鳥類を捕食する。
現状	タカの仲間では個体数が多い種であるが, 近年, 観察頻度が少なくなっている。
備考	ワシントン条約附属書II

ノスリ

学名	Buteo buteo (Linnaeus,1758)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

阿蘇について繁殖準南限であるが、近年繁殖期の観察が少なくなっている。

県内分布	県内全域の平地から低山帯に生息する冬鳥。くじゅう山系、塚原、日出生台、釈迦岳などの高地の草原地帯では、夏にも生息する。
分布域	日本全国で留鳥。九州では主に冬鳥。
世界的分布	旧北区の広い範囲で繁殖し、冬季は熱帯や温帯へ渡り越冬する。
生息環境	平地から山地の森林に生息する。草原の上で停空飛翔し、小形動物や鳥類、ヘビなどを食べる。断崖や樹上に巣をかける。
現状	冬にはタカ類としては比較的良好に見られるが、繁殖期の個体数は十数羽程度と推定される。阿蘇が繁殖南限である。春秋には、佐賀関などで渡りが観察される。
備考	ワシントン条約附属書II

サシバ

学名	Butastur indicus (Gmelin,1788)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

繁殖場所である里山の平地林が減少している。餌となる爬虫類、両生類が減少している。県内での繁殖個体数が減少している。

県内分布	全域の平地から山地の林に夏鳥。
分布域	本州, 四国, 九州で夏鳥。奄美諸島以南では冬鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国東北部で繁殖, 中国南部以南の東南アジアで越冬。
生息環境	低山や丘陵の林で繁殖する。水田や草地で, 小型は虫類, 両生類, 昆虫類を捕食する。
現状	かつては里山に普通に生息していた種であるが, 最近では観察頻度が減っている。春秋には, 四国と鶴見半島や佐賀関の間を数千羽が渡る。
備考	ワシントン条約附属書Ⅱ, 希少鳥獣

クマタカ

学名	Spizaetus nipalensis (Hodgson,1836)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I B (EN)



【選定理由】

生息地である森林の伐採・開発や、針葉樹への樹種変換などにより、エサとなる動物が減少し、生息環境が悪化している。営巣木となる高木が減少している。また、剥製や飼育のための捕獲圧も高い。

県内分布	県内全域の森林部に生息する留鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州の山地の混交林に生息する留鳥。
世界的分布	中国南部, 台湾で繁殖, 留鳥, タイ, マレーシアで越冬。日本に生息する亜種クマタカ (S. n. orientalis) は日本固有亜種。
生息環境	山地のよく茂った森林に生息し, 林内でノウサギ, ヤマドリ, 小鳥類を捕食する。巣は, 針葉樹の高木に造る。
現状	県内の生息個体数は, 数十羽程度と推定される。剥製や飼育のために捕獲され, 県内の密猟グループが摘発された事例がある。
備考	ワシントン条約附属書II, 国内希少野生動植物種, 希少鳥獣

イヌワシ

学名	Aquila chrysaetos (Linnaeus,1758)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県： I A (CR)	環境省： I B (EN)



【選定理由】

全国に400～500羽程度生息するが、九州、四国、中国西部では生息個体数が少なく、絶滅の危機に瀕している。森林の伐採、開発などにより全国的に生息数、繁殖率が低下している。県内では、繁殖活動が見られなくなっている。

県内分布	くじゅう山系に生息する留鳥。
分布域	北海道から九州の低山から高山に生息する留鳥。
世界的分布	朝鮮半島で留鳥、中国東北部では冬鳥、シベリア北部では夏鳥、シベリア南部では留鳥。
生息環境	山地の森林と草原が組み合わさった環境に生息する。崖地の岩棚などに営巣し、開けた場所で、ウサギ、キジ、ヘビなどを捕食する。
現状	県内には1ペアが生息していたが、1983年以降一度も繁殖に成功していない。1996年以降は営巣活動が見られなくなり、ペアで飛ぶ姿も見られなくなった。
備考	亜種イヌワシ(A. c. japonica)は、日本と朝鮮半島の固有亜種で、ニホンイヌワシと同じ。国内希少野生動植物種、天然記念物。種イヌワシは、ワシントン条約附属書II。希少鳥獣。

ハイロチュウヒ

学名	Circus cyaneus (Linnaeus,1766)	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



【選定理由】

全国的に飛来する個体数は少ないが、河川改修、開発などにより広い湿原、アシ原が激減しており、生息に適した環境が少なくなっている。

県内分布	海岸部、河川の湿地帯、長者原周辺の草地に飛来する希な冬鳥。
分布域	日本全国に少数が飛来する冬鳥。
世界的分布	旧北区の広い範囲で繁殖し、冬季は南へ渡り越冬する。
生息環境	草原や湿地に生息する。地上付近を低空飛行したり、地上を徘徊しながら獲物を探し、両生類、爬虫類、鳥類、小型哺乳類等を食べる。
現状	県内の越冬個体数は10数羽程度であると推定される。
備考	ワシントン条約附属書II

チュウヒ

学名	Circus spilonotus Kaup,1847	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	タカ科	
科名学名	Accipitridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I B (EN)



【選定理由】

全国的に個体数は非常に少ないが、河川改修、開発などにより広い湿原、アシ原が激減しており、生息に適した環境が少なくなっている。県内でも越冬個体数が減少している。

県内分布	全域の海岸部のアシ原に希な冬鳥。
分布域	北海道、本州中北部では少数が繁殖、本州中西部、四国、九州、琉球諸島の海岸部のアシ原に冬鳥。
世界的分布	中国東北部、シベリア、サハリンで繁殖、中国南部で越冬。
生息環境	湖沼、河川、海岸の周辺にある広い湿原、草原、農耕地に生息する。アシ原の上を周回しながら、ネズミやカエルなどの小動物を捕食する。
現状	県内の越冬個体数は10羽未満であると推定される。
備考	ワシントン条約附属書II、希少鳥獣

ハヤブサ

学名	Falco peregrinus Tunstall,1771	
目名	タカ目	
目名学名	FALCONIFORMES	
科名	ハヤブサ科	
科名学名	Falconidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



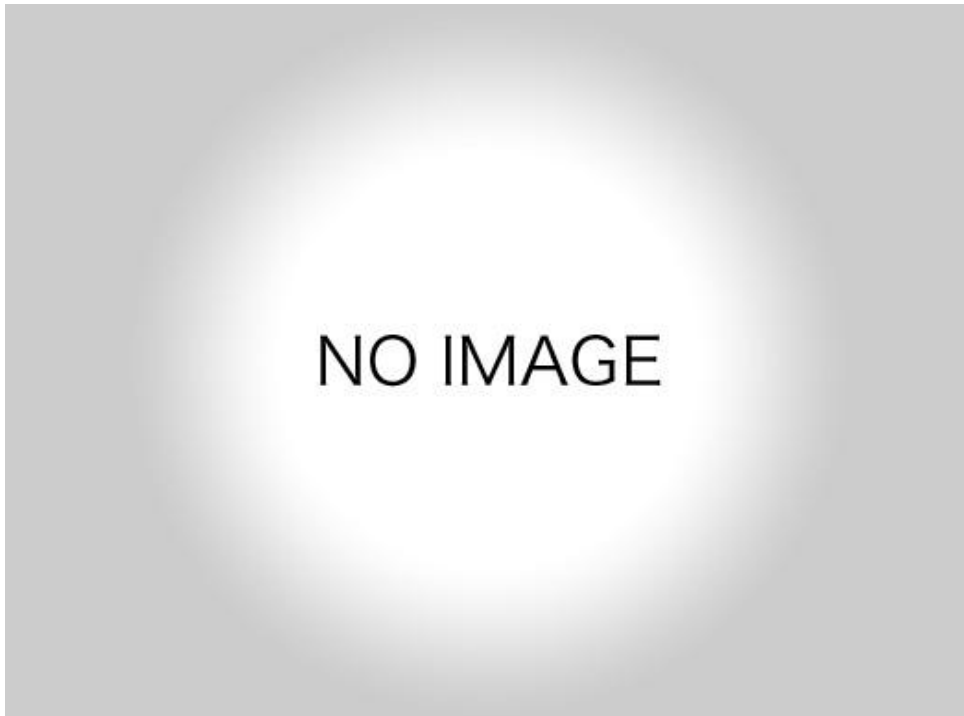
【選定理由】

繁殖個体数は極めて少ない。飼育や剥製にするために捕獲される。また、化学的汚染による悪影響も懸念されている。

県内分布	県内全域の海岸部に留鳥。冬季は個体数増加。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州の海岸部に留鳥。琉球諸島では冬鳥。
世界的分布	シベリア, 中国東北部で繁殖, 中国南部で越冬。
生息環境	岩山や海岸の岩棚に営巣する。おもに空中で中型鳥類を捕食する。非繁殖期には、干潟や河川, 都市部など開けた場所でも見られる。
現 状	県内の繁殖個体数は10羽未満, 越冬個体数は数十羽程度である。
備 考	ワシントン条約附属書I, 国内希少野生動植物種, 希少鳥獣

ウズラ

学名	Coturnix japonica Temminck & Schlegel, 1849	
目名	キジ目	
目名学名	GALLIFORMES	
科名	キジ科	
科名学名	Phasianidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 準 (NT)



[選定理由]

県内分布	平地, 高地の草原に飛来する冬鳥。
分布域	北海道, 本州北部で夏鳥, 本州中西部, 四国, 九州, 琉球諸島で冬鳥。九州でも繁殖例がある,
世界的分布	ウスリー, 中国東北部, シベリアで繁殖, 朝鮮半島, 中国南部で越冬。
生息環境	平地から山地の草地や農耕地に生息し, 主に地上で生活する。草地を歩き回って, 草の種子や芽, 木の実, 昆虫類, クモ類などを食べる。
現状	県内の生息数は少ない。繁殖期の観察記録もあるが地上生活し, ほとんど鳴かないので観察する機会が少ない。
備考	

ヤマドリ

学名	Syrmaticus soemmerringii (Temminck,1830)		
目名	キジ目		
目名学名	GALLIFORMES		
科名	キジ科		
科名学名	Phasianidae		
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)	



[選定理由]

生息数に比べて、狩猟圧が大きい。針葉樹林に転換され生息環境が悪化している。

県内分布	全域の森林地帯に留鳥。
分布域	種ヤマドリは、日本固有種で、本州、四国、九州に留鳥。大分に生息する亜種アカヤマドリ(S. s. soemmerringii)は九州北部に留鳥。
世界的分布	日本以外には生息しない。
生息環境	平地から山地のよく茂った林と林縁部。おもに植物食だが、昆虫なども食べる。
現状	アカヤマドリが生息する九州北部で長期にわたって個体数の減少傾向が見られる。
備考	国際自然保護連合：準。

ナベヅル

学名	Grus monacha Temminck, 1835	
目名	ツル目	
目名学名	GRUIFORMES	
科名	ツル科	
科名学名	Gruidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

本種の越冬地が鹿児島県出水に集中しており、越冬地を分散する必要があるといわれている。近年、宇佐平野に少数が毎年飛来するようになったので、情報不足から絶滅危惧Ⅱ類とした。

県内分布	開けた耕地, 湿地, 河原などに飛来する冬鳥。宇佐平野以外では希に一時的に立ち寄るのみ。
分布域	鹿児島県出水に約10,000羽, 山口県熊毛町八代に約20羽が冬鳥として飛来するのみで, その他の地域は渡りの途中に一時的に立ち寄るだけ。
世界的分布	アムール川流域, シベリアで繁殖し, 鹿児島県出水と揚子江流域で越冬する。
生息環境	開けた耕地, 湿地, 河原などで越冬する。落穂, 草の実, 昆虫, 魚などを食べる。
現状	この15年ほど宇佐平野にほぼ毎年数羽から10数羽が飛来している。他の地域でも短期間の観察記録がある。
備考	国際自然保護連合:Ⅱ, ワシントン条約附属書Ⅰ, 国際希少野生動植物種, 希少鳥獣。

マナヅル

学名	Grus vipio Pallas,1811	
目名	ツル目	
目名学名	GRUIFORMES	
科名	ツル科	
科名学名	Gruidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

本種の越冬地が鹿児島県出水に集中しており、越冬地を分散する必要があるといわれている。近年、宇佐平野に少数が毎年飛来するようになったので、情報不足から絶滅危惧Ⅱ類とした。

県内分布	開けた耕地, 湿地, 河原などに飛来する冬鳥。宇佐平野以外では希に一時的に立ち寄るのみ。
分布域	定期的な生息地は, 鹿児島県出水に約3000羽, 山口県熊毛町八代に約50羽が冬鳥として生息するのみで, その他は渡りの途中あるいは迷鳥。
世界的分布	中国東北部, ロシアの東南部で繁殖, 朝鮮半島, 出水, 揚子江下流で越冬。
生息環境	開けた耕地, 湿地, 河原などで越冬する。魚類や穀類, 草の根などを採食する。
現状	この15年ほど宇佐平野にほぼ毎年数羽から10数羽が飛来している。他の地域でも短期間の観察記録がある。
備考	国際自然保護連合:Ⅱ, ワシントン条約附属書I, 国際希少野生動植物種, 希少鳥獣。

ヒクイナ

学名	Porzana fusca (Linnaeus,1766)	
目名	ツル目	
目名学名	GRUIFORMES	
科名	クイナ科	
科名学名	Rallidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



[選定理由]

小河川や水路のコンクリート化により生息環境が悪化し、生息数が減少している。

県内分布	平地の湿地に夏鳥。
分布域	亜種ヒクイナは、北海道、本州、四国、九州で夏鳥。屋久島以南では冬鳥。奄美以南では亜種リュウキュウヒクイナ(P. f. phaeopyga)が留鳥。
世界的分布	朝鮮半島、中国中部・南部で繁殖、東南アジアで留鳥。
生息環境	平地から低山の水田を含む湿地に生息し、草の茂みの中で繁殖する。水生の魚類、昆虫類、甲殻類のほか、草本の種子などを食べる。
現状	大分県内でも繁殖している可能性が高いが、草むらの中で生活しているので、姿を見つけにくい。近年、宅地開発、圃場整備、水田の乾田化などにより生息環境が悪化し、観察頻度が減少している。
備考	希少鳥獣

タマシギ

学名	Rostratula benghalensis (Linnaeus,1758)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	タマシギ科	
科名学名	Rostratulidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



【選定理由】

土地改良により泥田が減少し、農業形態の変化により生息環境が悪化して、個体数が減少している。

県内分布	全域の水田、蓮田、休耕地や湿生草原、河川に留鳥。
分布域	本州中西部、四国、九州、琉球諸島で留鳥。
世界的分布	中国北部で夏鳥、中国南部以南の東南アジア全域で留鳥。
生息環境	水田や草丈の短い湿生草原に生息し、昆虫やミズなどの小動物や、イネなどの草本の種子を食べる。繁殖期の夕方にはよく鳴くが、姿を見ることは少ない。水を張った休耕地では繁殖するが、乾燥していると利用しない。
現状	かつては、水田に普通に見られた鳥であるが、近年は、観察頻度が減少している。
備考	

コチドリ

学名	Charadrius dubius Scopoli, 1786	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	チドリ科	
科名学名	Charadriidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



【選定理由】

海岸や河川の環境が変化し、繁殖に使う海岸や河川の砂礫地が減少しているため、繁殖数が減少している。

県内分布	全域の海岸や河川で繁殖，一部は越冬。
分布域	北海道，本州，四国，九州で繁殖，本州，四国，九州，琉球諸島では越冬。
世界的分布	朝鮮半島，中国，シベリアで繁殖，中国南部，東南アジアで越冬。
生息環境	海岸，砂浜，河原，裸地の草の少ない地上に営巣する。おもに湿地で無脊椎動物や草本の種子を食べる。
現状	営巣できる環境が少なくなって，繁殖期の観察頻度が少なくなっている。
備考	

シロチドリ

学名	Charadrius alexandrinus Linnaeus, 1758	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	チドリ科	
科名学名	Charadriidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



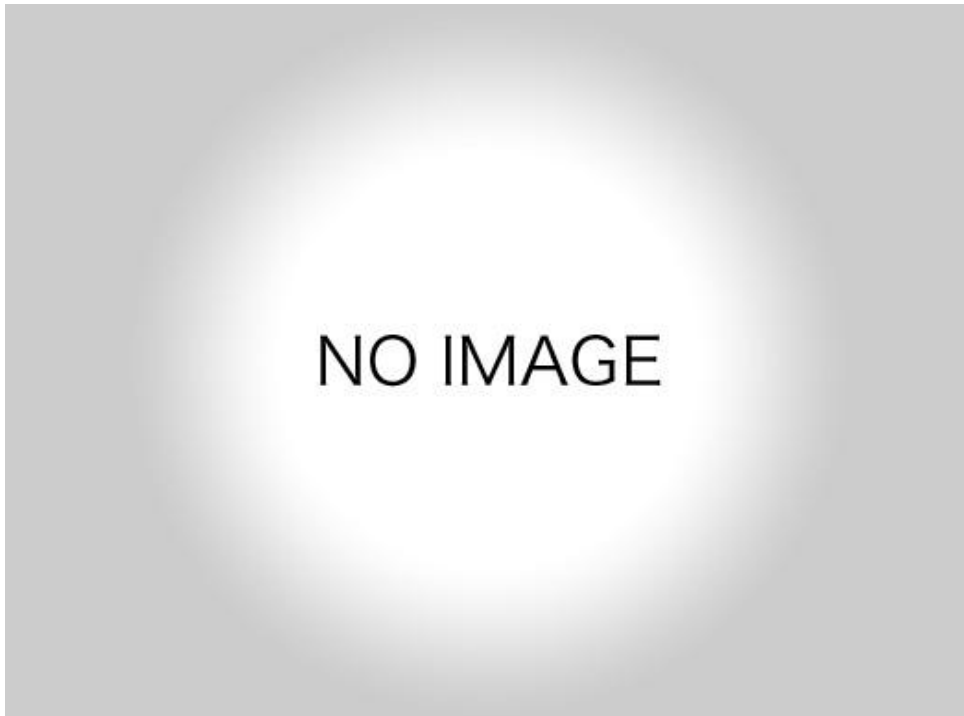
【選定理由】

海岸や河川の環境が変化し、繁殖に使う海岸や河川の砂礫地が減少しているため、繁殖数が減少している。

県内分布	海岸部の砂浜や埋立地で繁殖，越冬。
分布域	北海道で夏鳥，本州，四国，九州，琉球諸島で留鳥。
世界的分布	中国，インドシナ半島で繁殖，中国中部以南で越冬。
生息環境	海岸の砂浜や河川，埋立地などの地上に営巣し，おもに，湿地，干潟でゴカイや水生昆虫，ミミズ，甲殻類，貝類などの小動物を食べる。
現状	営巣できる環境が少なくなって，繁殖期の観察頻度が少なくなっている。
備考	

ヘラシギ

学名	Eurynorhynchus pygmeus (Linnaeus,1758)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Scolopacidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: I A (CR)

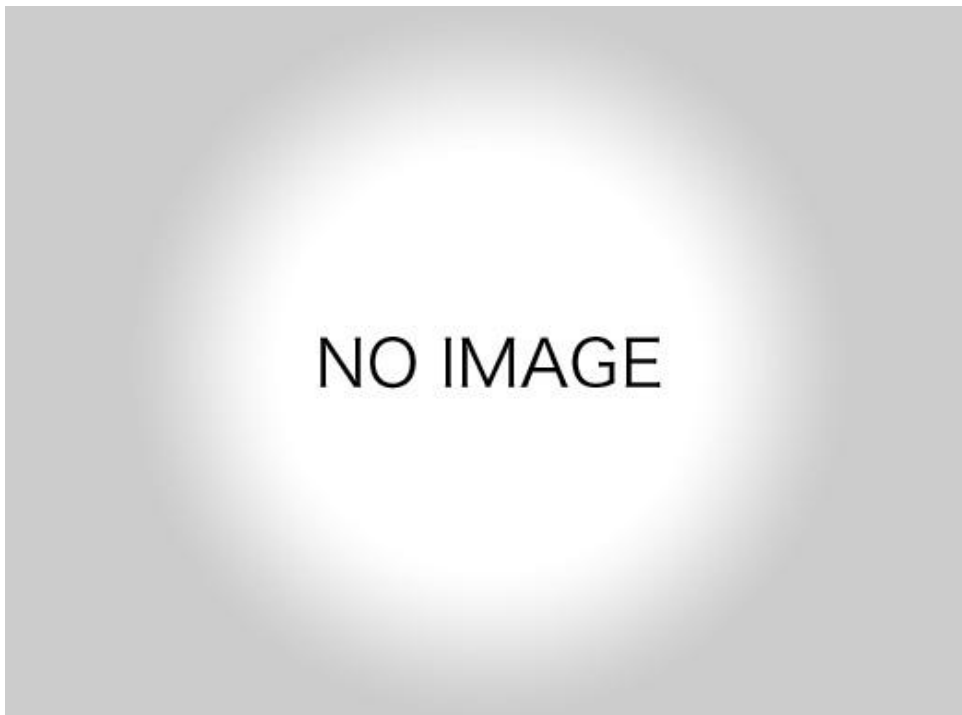


[選定理由]

県内分布	県北の海岸に極めて希に飛来する旅鳥。
分布域	全国の海岸に極めて希な旅鳥。
世界的分布	チュコト半島からカムチャツカで繁殖, 中国南部からインドシナで越冬。
生息環境	砂浜の海岸や砂質の干潟で, 嘴を左右に振りながら, 甲殻類や昆虫類の幼生を採食する。おもに秋に観察される。
現状	本種の総個体数は, 約 1,000羽と極めて少ない。日本に飛来する個体数は, 数10羽である。県内では過去に5回しか観察されていない。
備考	国際自然保護連合: IA, 希少鳥獣

シベリアオオハシシギ

学名	Limnodromus semipalmatus (Blyth,1848)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Scolopacidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: 情報不足 (DD)



[選定理由]

県内分布	干潟や湿地に極めて希に飛来する旅鳥。
分布域	全国の干潟に希な旅鳥。
世界的分布	中国東北部で繁殖, 東南アジアで越冬。
生息環境	干拓地, 湿地, 干潟などに飛来する。海水域では, ゴカイ, 貝類, 甲殻類などを食べ, 淡水域では, 陸生貝類, ミズ, 昆虫類の幼虫を食べる。
現状	県内では, 中津, 杵築, 大分で5回の観察記録があるが, この10年は観察されていない。
備考	国際自然保護連合: 準。

アカアシシギ

学名	Tringa totanus (Linnaeus,1758)		
目名	チドリ目		
目名学名	CHARADRIIFORMES		
科名	シギ科		
科名学名	Scolopacidae		
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)	



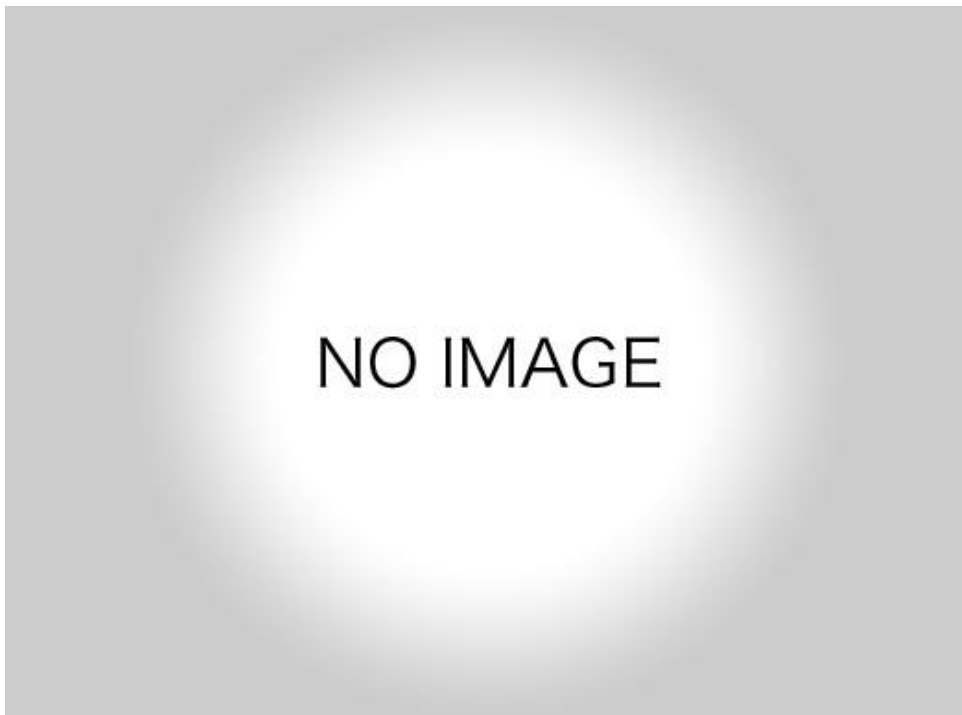
[選定理由]

本種の総個体数は、約 10,000羽と極めて少ない。

県内分布	全域の海岸部, 河口部の湿地に旅鳥。
分布域	北海道東部で繁殖。琉球諸島では冬鳥, その他の地域では旅鳥。
世界的分布	中国東北部, シベリアで繁殖, 中国南部以南で越冬。
生息環境	湿地, 干潟, 河口部, 干拓地, 水田などに旅鳥として, 飛来する。北海道東部では草むらの中に営巣する。湿地でゴカイ, ミミズ, 小魚などを食べる。
現状	県内では, ほぼ毎年, 春に1~2回, 秋に2~3回程度の観察記録がある。
備考	希少鳥獣

カラフトアオアシシギ

学名	Tringa guttifer (Nordmann,1835)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Scolopacidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：I A (CR)



[選定理由]

県内分布	海岸, 河口の干潟に, ごく希に飛来する旅鳥。
分布域	全国の海岸, 河口の干潟に, ごく希に飛来する旅鳥。
世界的分布	サハラ以南で繁殖し, 東南アジアで越冬する。
生息環境	海岸, 河口の干潟に飛来し, 砂浜や干潟でカニなどの甲殻類や無脊椎動物, 小魚を食べる。
現状	本種の総個体数は, 約 1,000羽と絶滅のおそれが高いレベルである。日本への飛来数は, 年間数羽と極めて少ない。県内では, 宇佐, 杵築, 大分, 佐伯で過去に観察記録があるが, 最近10年は観察されていない。
備考	国際自然保護連合: 1B, ワシントン条約附属書I, 国内希少野生動植物種, 希少鳥獣

ホウロクシギ

学名	Numenius madagascariensis (Linnaeus,1766)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Scolopacidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

本種の総個体数は約 21,000羽と少ない。大きな干潟が減少している。

県内分布	全域の干潟，河川河口部，海岸部の湿地に飛来する旅鳥。
分布域	全国の干潟に旅鳥，山口，福岡，佐賀，長崎，熊本，沖縄で越冬。
世界的分布	中国東北部，シベリアで繁殖。東南アジア南部とオーストラリアで越冬。
生息環境	広い干潟，河口部，水田，草地などに飛来し，干潟でカニなどの甲殻類，ゴカイ類，昆虫類などを食べる。
現 状	県内では，春秋に数羽が渡りの途中に休息していく。最近は観察されない年もある。
備 考	国際自然保護連合：準，希少鳥獣。

コシャクシギ

学名	Numenius minutus Gould,1841	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Scolopacidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：I B (EN)



[選定理由]

県内分布	海岸近くの農耕地, 河川敷などにごく希に飛来する旅鳥。
分布域	全国の海岸近くの農耕地, 草地に飛来する旅鳥。
世界的分布	シベリア北部で繁殖, ニューギニア, オーストラリアで越冬。
生息環境	海岸近くの農耕地, 草地などにごく希に渡来し, ハチ, アブなどの昆虫を食べる。
現 状	日本への飛来数が少ない。県内では, 中津, 杵築, 大分, 佐伯で観察記録があるが, 5年に1回よりも少ない。
備 考	国際希少野生動植物種。希少鳥獣

オオジシギ

学名	Gallinago hardwickii (Gray,1831)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Scolopacidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：準 (NT)



【選定理由】

日本だけで繁殖する固有種であるが、総個体数は少ない。越冬地のオーストラリアでは個体数が減少していると言われている。県内での観察頻度が少なくなってきた。

県内分布	飯田高原と日出生台に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州中北部, 本州西部(広島), 四国(愛媛), 九州(熊本, 大分)で夏鳥。その他の地域では旅鳥。
世界的分布	オーストラリア南東部で越冬し, 日本とサハリン南部で繁殖。
生息環境	湿生草地や牧草地に夏鳥として飛来し, 地上に営巣する。ミズや昆虫などをとる。移動の時期には, 水田や湿地にも飛来する。
現状	阿蘇北外輪山について繁殖地のほぼ南限に位置している。県内の生息数は10個体以下である。
備考	

セイタカシギ

学名	Himantopus himantopus (Linnaeus,1758)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	シギ科	
科名学名	Recurvirostridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I B (EN)



[選定理由]

本種の総個体数は約 10,000羽であり、日本への飛来数は極めて少ない。

県内分布	海岸部の湿地帯に飛来する希な旅鳥。
分布域	本州(千葉, 愛知)で繁殖。その他の地域では希な旅鳥。
世界的分布	中国内陸部で繁殖, 中国南部, 東南アジア, オーストラリアで越冬。
生息環境	海岸沿いの開けた見晴らしのよい地上に営巣する。浅い水域で昆虫, 貝類, 小魚などの小動物や水草を食べる。
現状	県内では年に1~2回観察される程度である。
備考	希少鳥獣

ツバメチドリ

学名 *Glareola maldivarum* Forster,1795

目名 チドリ目

目名学名 CHARADRIIFORMES

科名 シギ科

科名学名 Glareolidae

カテゴリー 大分県：Ⅱ (VU) 環境省：Ⅱ (VU)

NO IMAGE

【選定理由】

日本への飛来個体数が少なく、繁殖が局地的である。県内でも毎年数羽飛来する程度である。

県内分布	河川、農耕地、埋立地などに希に飛来する夏鳥または旅鳥。
分布域	本州(茨城、栃木、埼玉、愛知、大阪)、四国(徳島)、九州(福岡、熊本、宮崎、鹿児島)では局所的に繁殖。その他の地域では希な旅鳥。
世界的分布	中国で繁殖、中国南部、マレー半島、インドネシア、オーストラリアなどで越冬。
生息環境	草地、乾燥した農耕地、埋立地などに旅鳥として飛来する。裸地の地上に営巣する。おもに、地上を走ったり、空中を飛び回って昆虫類を捕食する。
現状	県内でも毎年観察されていたが、最近では観察頻度がやや少なくなった。
備考	希少鳥獣

ズグロカモメ

学名	Larus saundersi (Swinhoe,1871)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	カモメ科	
科名学名	Laridae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)



[選定理由]

本種の総個体数約 5,000羽のうち、九州北部の海岸部に約 1,000羽が越冬する。県内には数10羽が越冬する。泥質干潟に依存している鳥であるが、採餌場所である泥質干潟が近年急激に減少している。

県内分布	杵築湾以北の干潟に飛来する冬鳥。
分布域	九州北部に冬鳥。
世界的分布	中国北部、モンゴルなどで繁殖、九州北部、中国南部、台湾で越冬。
生息環境	海岸、海上に生息し、泥質干潟で甲殻類、ゴカイ類などの水生小動物を採餌する。
現状	中津、杵築の海岸に数羽～数十羽が越冬する。北九州の曾根干潟には、毎年2百数十羽が越冬し、その一部が県北の干潟に飛来するものと思われる。県北の泥質干潟は少なくなってきている。
備考	国際自然保護連合：II, 希少鳥獣。

コアジサシ

学名	Sterna albifrons Pallas,1764	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	カモメ科	
科名学名	Glareolidae	
カテゴリー	大分県：ⅠA(CR)	環境省：Ⅱ(VU)



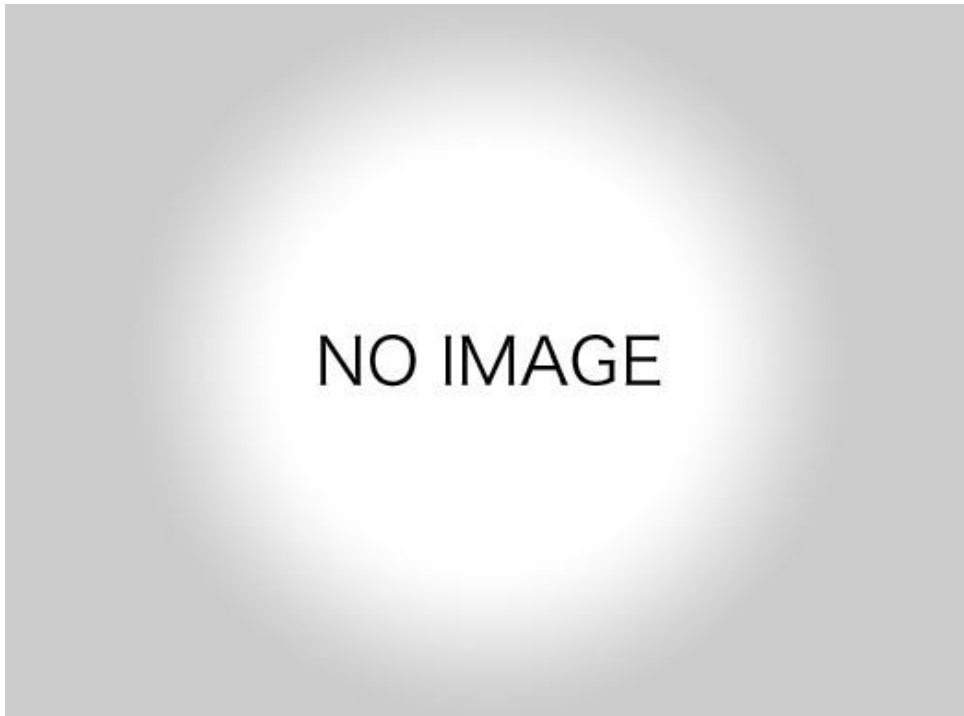
[選定理由]

全国的に河川改修, 海岸部の埋め立て, 造成, 防波堤工事, 自動車の進入などにより, 繁殖に適した環境が激減している。県内でも, 20年前まで数か所で集団繁殖していたが, 近年は, 繁殖がほぼゼロに近い状態が続いている。

県内分布	大分川, 大野川および海岸部の砂礫地で繁殖する夏鳥であったが, 近年は春秋に通過する旅鳥。
分布域	本州, 四国, 九州, 琉球諸島で夏鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国全域, 台湾で繁殖, 東南アジアで越冬。
生息環境	海岸部や湖沼の岸, 大きな河川の砂地・砂礫地に集団で繁殖する。空中からダイビングして小魚を取って食べる。
現状	新たな繁殖地として, 海岸部の造成中の更地を使うようになっている。かつては, 中洲の営巣地は釣り人の接近や, 増水によって失敗する例が見られた。
備考	国際希少野生動植物種, 希少鳥獣

ウミスズメ

学名	Synthliboramphus antiquus (Gmelin,1789)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	ウミスズメ科	
科名学名	Alcidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：I A (CR)



[選定理由]

県内分布	全域の海上に希に見られる冬鳥。
分布域	北海道の島嶼で繁殖。東北以北の海上では留鳥，本州以南では冬鳥。
世界的分布	北太平洋，日本海北部の海岸部で繁殖，台湾以北の太平洋で越冬。
生息環境	岩の隙間の奥に営巣する。繁殖期以外は海上で生活する。潜水して小魚や甲殻類，軟体動物などを食べる。
現状	大分，佐賀関，鶴見，蒲江，真玉，姫島の海上で観察記録がある。
備考	潜水中に魚網にかかることがある。1997年の日本海油流出事故で被害を受けた水鳥1,304羽の35%が本種であった。希少鳥獣

カンムリウミスズメ

学名	Synthliboramphus wumizusume (Temminck,1835)	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	ウミスズメ科	
科名学名	Alcidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：Ⅱ (VU)



【選定理由】

本種の総個体数は、5,000～6,000羽と推定されている。県南の海域に冬季だけでなく繁殖期にも見られるので、もし岩礁や無人島で繁殖が見つければ、日本固有種の数少ない繁殖地として重要である

県内分布	県南の海上に留鳥。
分布域	本州、九州の周辺の十数か所の島で繁殖。繁殖地付近の海上では留鳥。それ以外の本州南部以南では冬鳥。
世界的分布	本州と九州の島嶼部と朝鮮半島南部でのみ繁殖。冬も、日本近海のみで生息。
生息環境	日本列島周辺の暖流域にある数か所の無人島の崖や岩のすき間などに集団営巣する。雛は孵化して2日後に海上に出て生活する。潜水して魚や甲殻類などのプランクトンを食べる。
現状	近県では、福岡県沖ノ島、宮崎県枇榔島で繁殖している。釣り人の接近、人が営巣地にもたらしたネコやネズミ、カラスによる捕食、魚網による捕獲などが、本種の生息に悪影響を与えている。潜水中に魚網にかかることがある。
備考	日本近海の固有種。天然記念物、国際自然保護連合:Ⅱ, 希少鳥獣

カラスバト

学名	Columba janthina Temminck,1830	
目名	ハト目	
目名学名	COLUMBIFORMES	
科名	ハト科	
科名学名	Columbidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：準(NT)



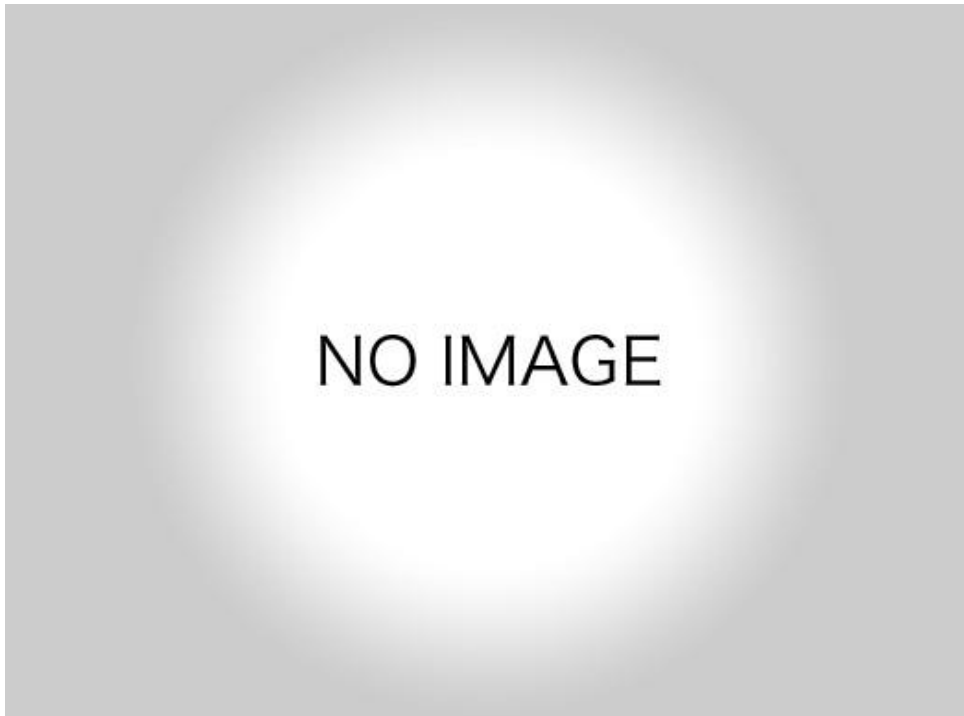
[選定理由]

生息環境が島嶼部に限定されており、個体数が少ない。

県内分布	深島, 沖黒島など県南の島嶼部に生息する留鳥。
分布域	伊豆諸島と九州周辺, 奄美諸島, 琉球諸島, 隠岐以南の暖流域の島や海岸部に生息する留鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国黄海と日本の島嶼部に生息する留鳥。
生息環境	暖流域にある島や海岸部の常緑広葉樹林内で繁殖する。シイやタブ, ツバキなどの実を好んで食べる。生息環境が限られているため, 個体数が少ない。
現状	生息環境が島嶼部に限定されているが, 鶴見半島, 佐賀関の半島部で確認されたこともある。
備考	日本の周辺だけに生息する準固有種である。国際自然保護連合:準, 天然記念物。

ジュウイチ

学名	Cuculus fugax Horsfield,1821	
目名	カッコウ目	
目名学名	CUCULIFORMES	
科名	カッコウ科	
科名学名	Cuculidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

九州中央山地が繁殖南限で、祖母・傾山系、くじゅう連山は、ほぼ繁殖南限に位置する。生息数は、他のカッコウの仲間よりもかなり少ない。

県内分布	山地の他のカッコウの仲間よりも標高の高いところに生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州中部以北の山地に夏鳥。
世界的分布	中国全域, 東北部で繁殖, 東南アジア全域で留鳥。
生息環境	低山から亜高山帯の落葉広葉樹林や針広混交林に生息し, おもに, コルリやオオルリおよび小型ヒタキ類に托卵する。樹冠部で毛虫を取って食べる。
現状	かつては年に5~10回程度の観察記録があったが, 最近では観察頻度が少なくなっている。
備考	

コミミズク

学名	Asio flammeus (Pontoppidan,1763)	
目名	フクロウ目	
目名学名	STRIGIFORMES	
科名	フクロウ科	
科名学名	Strigidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



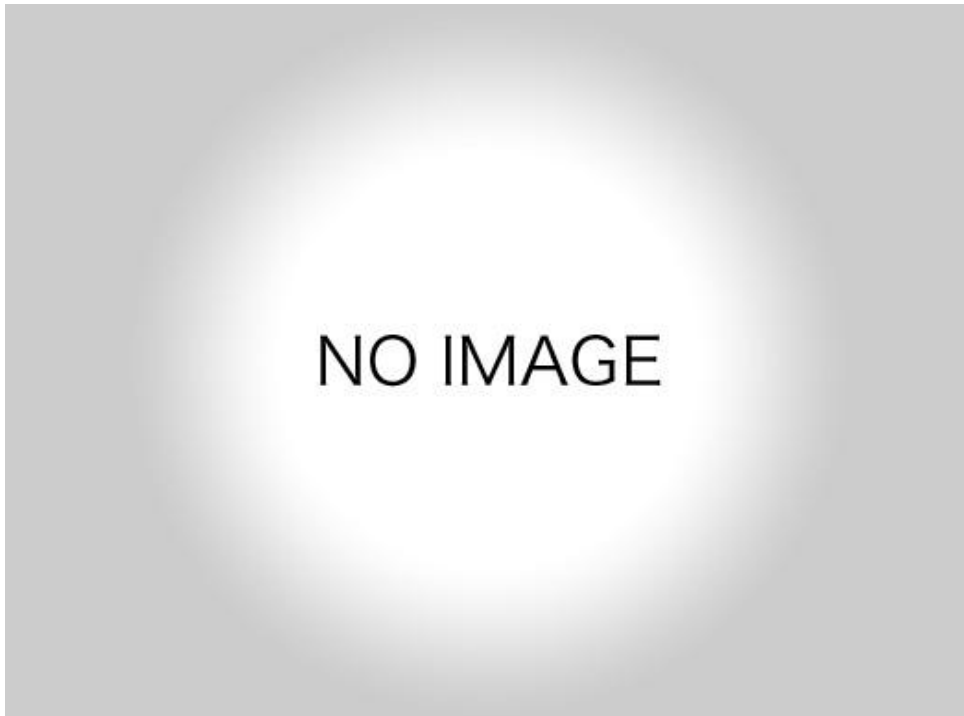
【選定理由】

広いアシ原を持つ河川敷や湿った草地の面積が減少しているため、越冬個体数が大きく減少している。

県内分布	全域の草原，河川敷に飛来する冬鳥。
分布域	北海道，本州，四国，九州に飛来する冬鳥。
世界的分布	中国東北部，シベリアで繁殖，朝鮮半島，中国全域で冬鳥。
生息環境	広い河川敷のアシ原や湿った草原，開けた農耕地に生息し，ネズミなどを捕食する。
現状	観察頻度は少なくなっている。県内の越冬個体数は，十羽程度と推定される。
備考	ワシントン条約附属書Ⅱ

コノハズク

学名	Otus scops (Linnaeus,1758)	
目名	フクロウ目	
目名学名	STRIGIFORMES	
科名	フクロウ科	
科名学名	Strigidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

生息数が少なく、さらに営巣環境の悪化により、生息数が減少している。

県内分布	全域の森林に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州の山地に夏鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国北部・東北部で繁殖, 中国中部・南部, フィリピンインドシナ半島で越冬。
生息環境	平地から山地の茂った林に夏鳥として生息し, 樹洞で営巣する。夜行性で主に昆虫類を捕食する。
現状	県内では, 釈迦岳, 黒岳, 傾山, 文殊仙寺, 野峠などで観察記録がある。渡りの途中には平地の森で声が聞こえることもある。県内の繁殖期の個体数は, 数十羽程度と推定される。
備考	ワシントン条約附属書Ⅱ

オオコノハズク

学名	Otus lempiji (Horsfield,1821)	
目名	フクロウ目	
目名学名	STRIGIFORMES	
科名	フクロウ科	
科名学名	Strigidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	平地から山地の森林に生息する留鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州で留鳥。琉球諸島には亜種リュウキュウオオコノハズク(O. l. pryeri)が留鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国全域, 東南アジア全域で留鳥。
生息環境	平地から山地の森林に生息し, 大木の樹洞で繁殖する。ネズミ類, トカゲ類, 小鳥類などの小動物を捕食する。
現 状	全国的に個体数が極めて少ない。繁殖に利用する大木が減少している。県内の観察記録は, 中津平野と文殊仙寺の3回のみである。
備 考	ワシントン条約附属書II。Otus bakkamoena と同じ

アオバズク

学名	Ninox scutulata (Raffles,1822)	
目名	フクロウ目	
目名学名	STRIGIFORMES	
科名	フクロウ科	
科名学名	Strigidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

平地でも山地でも、繁殖に適した大木が減少している。

県内分布	平地から山地の林に生息する夏鳥。
分布域	亜種アオバズク(<i>N. s. japonica</i>)は、北海道、本州、四国、九州で夏鳥。奄美以南は亜種リュウキュウアオバズク(<i>N. s. totogo</i>)が留鳥。
世界的分布	朝鮮半島、中国北部・東北部で繁殖、中国中部・南部、台湾、フィリピン、インドシナ半島で越冬。
生息環境	広葉樹林と針広混交林に夏鳥として生息し、大木の樹洞で繁殖し、薄暮時に飛翔性昆虫や鳥類を捕食する。
現状	自然林で営巣する環境が減少し、社寺林や公園林などに営巣している。
備考	ワシントン条約附属書II

フクロウ

学名	Strix uralensis Pallas,1771	
目名	フクロウ目	
目名学名	STRIGIFORMES	
科名	フクロウ科	
科名学名	Strigidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



【選定理由】

平地でも山地でも、繁殖に適した大木が減少している。

県内分布	全域の平地から山地の林に留鳥。
分布域	種フクロウは北海道、本州、四国、九州に留鳥。亜種キュウシュウフクロウ(S. u. fuscescens) は、千葉以南の太平洋岸、四国、九州に留鳥。
世界的分布	中国東北部、シベリア南部、サハリンに留鳥。
生息環境	平地から亜高山帯の針広混交林、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、農耕地などに生息し、大木の樹洞やカラスなどの古巣などに営巣する。夜行性で、ネズミやウサギなどの小動物、小鳥類などを捕食する。
現状	平地では営巣することができる木が激減している。営巣に適した老木があれば、都市部でも繁殖する。
備考	ワシントン条約附属書Ⅱ

ヨタカ

学名	Caprimulgus indicus Latham,1790	
目名	ヨタカ目	
目名学名	CAPRIMULGIFORMES	
科名	ヨタカ科	
科名学名	Caprimulgidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： II (VU)



[選定理由]

生息数が激減している。

県内分布	全県の平地から山地の疎林に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州で夏鳥。
世界的分布	中国全域, 朝鮮半島で繁殖, 東南アジアで越冬。
生息環境	低山から山地の明るい林, 農耕地内の残存林などに生息し, 地上に直接卵を産む。薄暮から夜行性で, 飛びながら大きな口を開き昆虫類を捕食する。
現状	里山の夜行性の鳥で身近な鳥であったが, 近年鳴き声を聞くことが少なくなった。全国的に分布域が縮小し, 生息数が減少している。
備考	希少鳥獣

アマツバメ

学名	<i>Apus pacificus</i> (Latham, 1801)	
目名	アマツバメ目	
目名学名	APODIFORMES	
科名	アマツバメ科	
科名学名	Apodidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

生息数が少ない，繁殖地が局限されている。

県内分布	海岸や山地の絶壁で繁殖する夏鳥。
分布域	北海道，本州，四国，九州，奄美諸島で繁殖する夏鳥。
世界的分布	中国，シベリア東部で繁殖，中国南部以南で越冬。
生息環境	高山や海岸の急峻な絶壁などに集団で繁殖する。ハエなどの飛翔性昆虫を飛びながら捕食する。雲が低い時には平地の上空でも見られる。
現状	県内では，深島，高島，沖黒島，鶴見半島，飯田高原などで観察されている。
備考	

アカショウビン

学名	Halcyon coromanda (Latham,1790)	
目名	ブッポウソウ目	
目名学名	CORACIIFORMES	
科名	カワセミ科	
科名学名	Alcedinidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

道路などの開発により、生息環境が悪化したため、生息数が減少している。個体数は大変少ない。

県内分布	全域の平地から山地の溪流に夏鳥。
分布域	亜種アカショウビン(H. c. major)は、北海道、本州、四国、九州、種子島、屋久島で繁殖する夏鳥。奄美諸島以南には別亜種リュウキュウアカショウビン(H. c. bangsi)が留鳥。
世界的分布	朝鮮半島、日本、台湾で夏鳥、東南アジアで留鳥。
生息環境	溪流沿いなどのよく茂った湿気のある林に生息し、朽木に穴を掘って営巣する。湿った林床で、カエルなどの両生類、爬虫類、甲殻類、無脊椎動物などを採食する。
現状	県内では、年に数回程度の観察記録があるのみで、最近では観察頻度が少なくなってきた。
備考	

ブッポウソウ

学名	Eurystomus orientalis (Linnaeus,1766)	
目名	ブッポウソウ目	
目名学名	CORACIIFORMES	
科名	ブッポウソウ科	
科名学名	Coraciidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I B (EN)



[選定理由]

営巣に適した老木が少なくなった。生息数はたいへん少ない。

県内分布	低山の溪流沿いの林に飛来する数少ない夏鳥。
分布域	本州, 四国, 九州に夏鳥。
世界的分布	中国全域, 朝鮮半島で繁殖, フィリピン, インドネシア, ベトナムで越冬。
生息環境	平地から低山の湖沼や溪流に接するよく茂った森林に生息し, 大木の樹洞に営巣する。森林内や農耕地上空で甲虫類やセミ, トンボなどの大型昆虫類を捕食する。
現状	営巣に適した老木が少なくなり, 庄内, 宇目の鉄橋の橋げたなどの人工構造物や巣箱に営巣している。県内の個体数は, 十羽以内であろうと推定される。
備考	希少鳥獣

ヤイロチョウ

学名	Pitta brachyura (Linnaeus,1766)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ヤイロチョウ科	
科名学名	Pittidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： I B (EN)



[選定理由]

生息数が極めて少ない。生息に適したうっそうとした常緑広葉樹森林が減少している。

県内分布	常緑広葉樹林に生息する数少ない夏鳥。
分布域	本州中部以南，四国，九州に夏鳥。
世界的分布	中国南部，台湾で夏鳥，東南アジア西部では留鳥。
生息環境	溪流沿いの落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に生息し，湿った斜面に営巣する。おもに地上でミミズや昆虫をとる。
現状	県内では，毎年数か所で観察記録がある。県内の個体数は，10羽程度であろうと推定される。
備考	Pitta nympha と同じ。国際自然保護連合：II，ワシントン条約附属書II，国内希少野生動植物種。

サンショウクイ

学名	Pericrocotus divaricatus (Raffles,1822)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	サンショウクイ科	
科名学名	Campephagidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：亜種サンショウクイ：Ⅱ (VU) 亜種



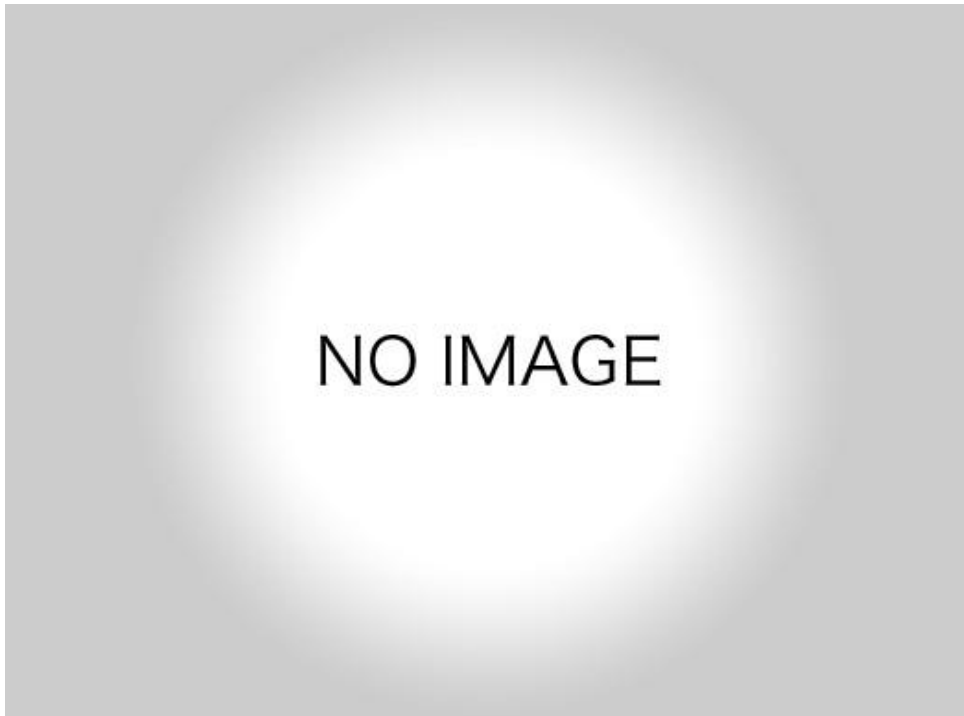
【選定理由】

近年の里山の開発，伐採，樹種変換が行われたことにより，落葉広葉樹林が減少し，生活環境が悪化し，個体数も大きく減少している。

県内分布	亜種サンショウクイ(P. d. divaricatus)は全域の里山に生息する夏鳥。亜種リュウキュウサンショウクイ(P. d. tegimae)は県南の里山で留鳥。
分布域	亜種サンショウクイは本州，四国，九州に生息する夏鳥，亜種リュウキュウサンショウクイは九州中部以南で留鳥。
世界的分布	中国東北部，ウスリー，シベリアで繁殖，中国南部，東南アジアで越冬。
生息環境	平地から低山の落葉樹林，常緑広葉樹林およびその林縁部のいわゆる里山城を主な生息地とする。昆虫類を空中でフライキャッチする。
現状	亜種サンショウクイは生息地が減少し，個体数も激減している。かつては，里山に普通に見られる鳥であったが，近年は，めったに見られない鳥になった。亜種リュウキュウサンショウクイは，数は少なくない。
備考	希少鳥獣

チゴモズ

学名	Lanius tigrinus Drapiez, 1828	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	モズ科	
科名学名	Laniidae	
カテゴリー	大分県: 情報不足 (DD)	環境省: I A (CR)

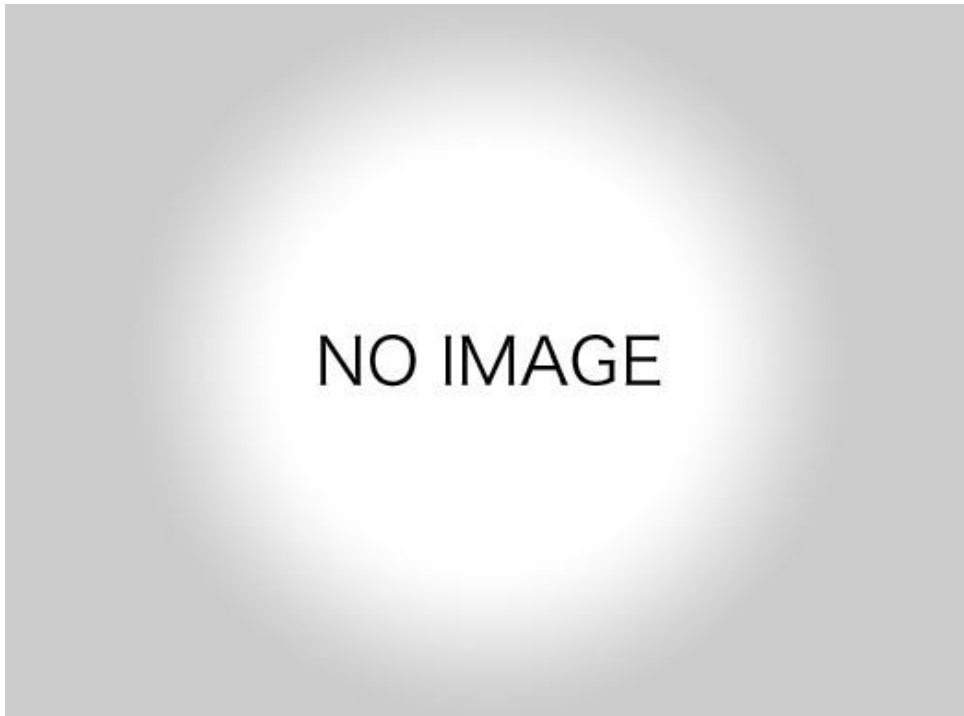


[選定理由]

県内分布	低地の広葉樹林帯に夏鳥あるいは旅鳥。
分布域	本州中北部に夏鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国中部・東北部で繁殖。中国南部, 東南アジアで越冬。
生息環境	平地から低山の明るい落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。昆虫類やクモ類を食べる。
現 状	生息数が極めて少ない。全国的にも減少が著しいと言われている。県内では大分と久住で6回の観察記録があるが、最近では観察されていない。
備 考	希少鳥獣

アカモズ

学名	Lanius cristatus Linnaeus,1758	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	モズ科	
科名学名	Laniidae	
カテゴリー	大分県： I B (EN)	環境省： 亜種アカモズ： I B (EN) 亜種シ



[選定理由]

世界的に生息数が減少していると言われており、国内の生息数もかなり少ない。

県内分布	全域の疎林に希な夏鳥あるいは旅鳥。
分布域	亜種アカモズ (<i>L. c. superciliosus</i>) は、主に本州中部以北に夏鳥、亜種シマアカモズ (<i>L. c. lucionensis</i>) は主に九州に夏鳥。
世界的分布	朝鮮半島、中国東北部、ウスリー、シベリアで繁殖、中国南部、東南アジアで越冬。
生息環境	開けた林、木が疎生する草原、林縁に生息し、昆虫、カエル、小鳥類などを食べる。
現 状	県内では、亜種シマアカモズが年に数回観察され、亜種アカモズも春秋の通過時にまれに観察される。
備 考	希少鳥獣

コマドリ

学名	Erithacus akahige (Temminck,1835)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ツグミ科	
科名学名	Truidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



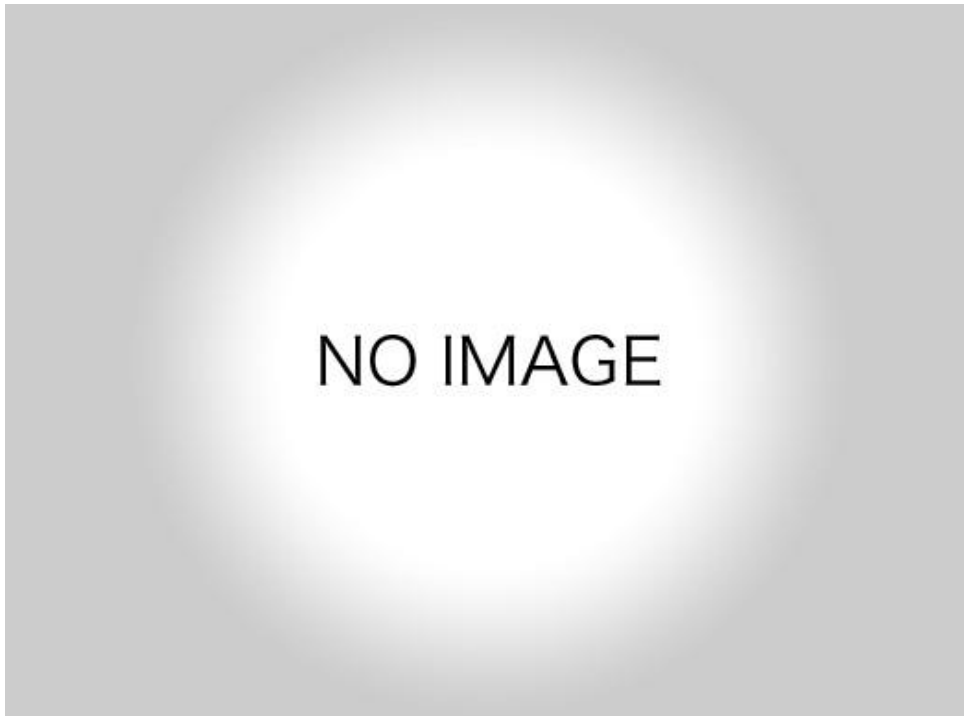
[選定理由]

よく茂った森林が少なくなっており、県内の生息地は標高の高い場所に限定されるので、生息個体数も少ない。

県内分布	標高の高い山地に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島に夏鳥。
世界的分布	日本だけで繁殖, 中国南部で越冬。
生息環境	山地の下草にササのよく茂った落葉広葉樹林や針葉樹林に夏鳥として飛来し, 湿った地上や窪みに営巣する。昆虫, ミミズ, クモ類などを食べる。
現 状	県内では標高1,200m程度より高いところしか生息しない。個体数は少ない,
備 考	日本だけで繁殖する固有種である。

コルリ

学名	Luscuria cyane (Pallas,1776)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ツグミ科	
科名学名	Truidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

繁殖南限であり、生息地が限定されていて、生息個体数が少ない。

県内分布	標高の高い山地の落葉広葉樹林に夏鳥。
分布域	北海道, 本州中北部に夏鳥。
世界的分布	朝鮮半島, 中国東北部, シベリア南部, サハリンで繁殖, 中国南部インドシナ半島で越冬。
生息環境	山地の針広混交林, 落葉広葉樹林の茂った林床に住み, 鱗翅類やクモを捕食する。
現状	県内では, くじゅう山系と, 渡りの途中に大分などの平地で見られるが, 少ない。
備考	

クロツグミ

学名	Turdus cardis Temminck, 1831	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ツグミ科	
科名学名	Turdidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

繁殖南限に近い。落葉広葉樹林が人工造林や森林伐採によって生息地が減少悪化している。

県内分布	低山に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州。四国, 九州(熊本, 大分)で夏鳥。
世界的分布	中国の一部と日本で繁殖, 中国南部で越冬。
生息環境	山地や丘陵の針広混交林, 広葉樹林に夏鳥として生息し, おもに林床でミミズや昆虫をとる。漿果も食べる。
現状	かつては, ふつうの夏鳥であったが, 近年, 生息数が減少し, 声が聞こえる場所が少なくなってきた。
備考	九州中央山地が繁殖南限。

コヨシキリ

学名	Acrocephalus bistrigiceps Swinhoe,1860	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ウグイス科	
科名学名	Sylviidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



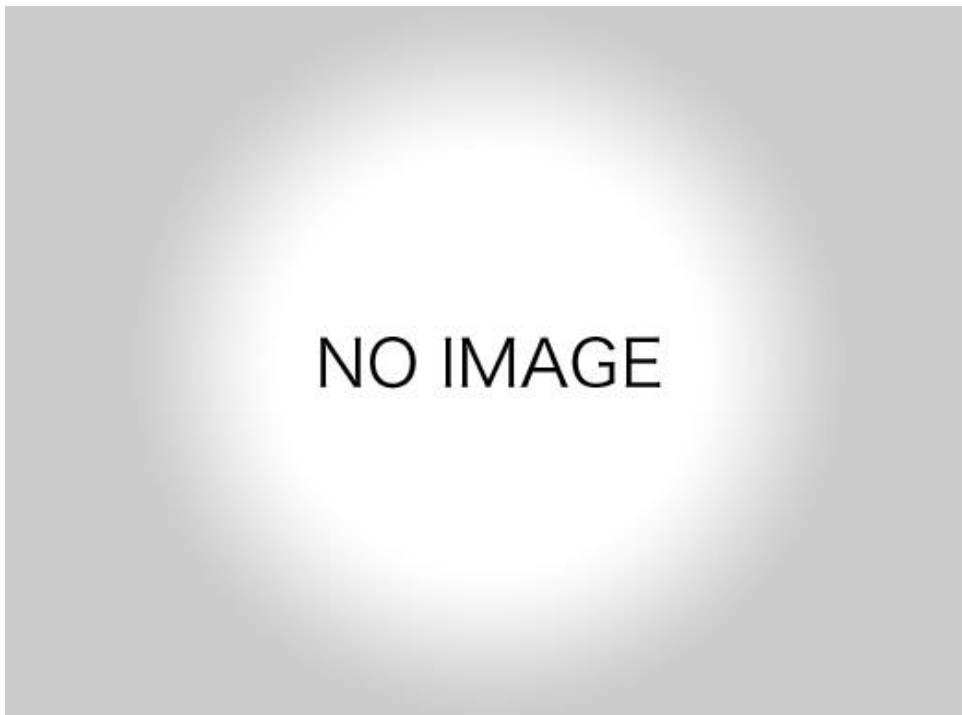
[選定理由]

全国的にも繁殖地は局限されている。阿蘇について繁殖準南限。

県内分布	日出生台で繁殖。
分布域	本州中部以北の高原、北海道の草原に夏鳥。
世界的分布	中国中部以北で夏鳥、中国南部、東南アジアで越冬。
生息環境	草丈の高い草原。アシ原、河川敷、湖沼周辺の草原に夏鳥として生息し、草むらの地上近くに営巣する。茂みの中で昆虫類や種子を食べる。
現状	繁殖に使う環境がかなり特殊で、県内には、日出生台しかない。
備考	

メボソムシクイ

学名	Phylloscopus borealis (Blasius,1858)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ウグイス科	
科名学名	Sylviidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



[選定理由]

繁殖南限であり。生息地は標高の高い場所に限定され、生息数もかなり少ない。

県内分布	釈迦岳, くじゅう山系, 祖母・傾山, 由布岳の山頂部に夏鳥。
分布域	亜種メボソムシクイ(P. b. xanthodryas)は, 北海道, 本州, 四国, 九州(大分)の高山に夏鳥。亜種コメボソムシクイ(P. b. borealis)は旅鳥として全国を通過する。
世界的分布	シベリア, カムチャツカ, サハリンで繁殖, 東南アジアで越冬。
生息環境	亜種メボソムシクイは, 亜高山帯の針葉樹林・広葉樹林に夏鳥として生息し, 木の根元や崖のくぼ地に営巣する。枝上で鱗翅類の幼虫などの昆虫類を捕食する。
現状	繁殖をする標高の高い場所では, 観察者も少ないため, 記録が少ない。
備考	亜種コメボソムシクイは, 渡りの時期には平地でも観察される。

キビタキ

学名	Ficedula narcissina (Temminck, 1835)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ヒタキ科	
科名学名	Muscicapidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



[選定理由]

森林開発と樹種変換のため生息地である広葉樹林が減少しており、生息数も減少している。

県内分布	低山から高山の落葉広葉樹林帯に生息する夏鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州に分布する夏鳥。屋久島以南では、別亜種リュウキュウキビタキ(F. n. owstoni)が常緑広葉樹林に生息する。
世界的分布	中国の一部と日本で繁殖, 中国南部, フィリピンで越冬。
生息環境	低山帯の落葉広葉樹のある森林に夏鳥として生息する。枝から昆虫に飛びつき捕らえる。
現状	かつては、ふつうの夏鳥であったが、近年、生息数が減少し、声が聞こえる場所が少なくなってきた。
備考	

サンコウチョウ

学名	Terpsiphone atrocaudata (Eyton, 1839)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	カササギビタキ科	
科名学名	Monarchidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



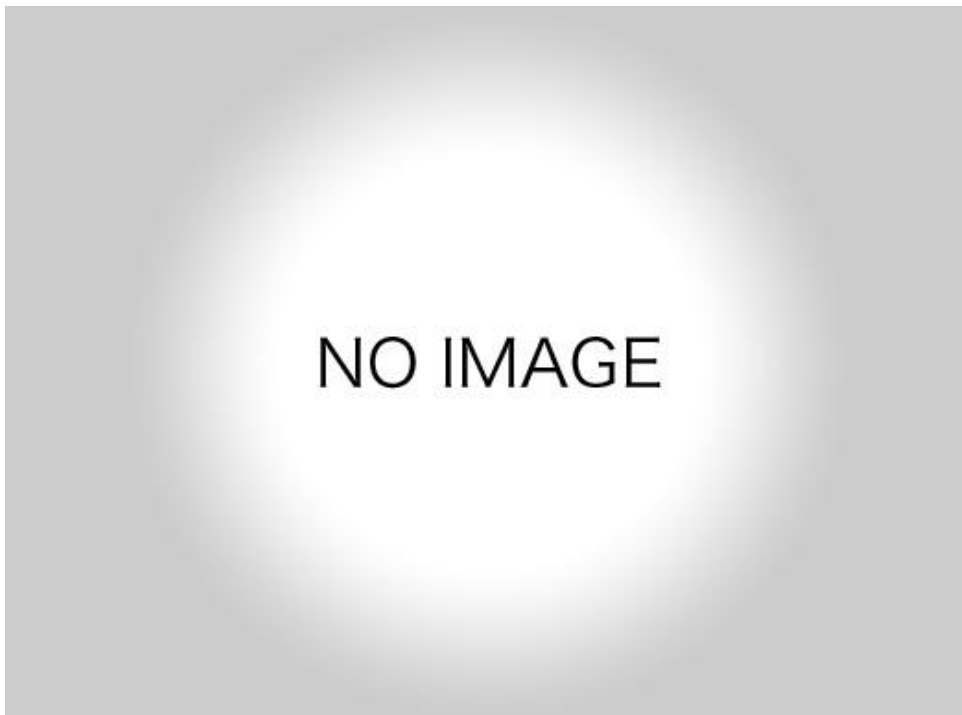
[選定理由]

平地林が減少し、幼齢林など生息環境が悪化・減少しているため、生息数が減少している。

県内分布	県内全域の平地林から里山域に生息する夏鳥。
分布域	亜種サンコウチョウ(<i>T. a. atrocaudata</i>)は、本州、四国、九州に夏鳥。奄美諸島以南は、亜種リュウキュウサンコウチョウ(<i>T. a. illex</i>)が常緑広葉樹林に留鳥。
世界的分布	台湾で繁殖、中国南部から東南アジア西部で越冬。
生息環境	丘陵地から低山の里山の開けた沢沿いの広葉樹林に夏鳥として生息し、樹冠部で昆虫を空中で捕食する。
現状	観察数は少なくなっている。
備考	日本と台湾だけで繁殖する準固有種、国際自然保護連合：準。

キバシリ

学名	Certhia familiaris Linnaeus,1758	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	キバシリ科	
科名学名	Certhiidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：掲載なし



[選定理由]

県内分布	祖母傾山系に生息する留鳥。
分布域	北海道では平地に、本州、四国、九州(大分、宮崎)では山地に留鳥。
世界的分布	中国北部・東北部、シベリア南部、サハリンで留鳥。
生息環境	亜高山帯の針葉樹林や落葉広葉樹林に留鳥として生息し、昆虫やクモ類を食する。
現状	県内では傾山と非繁殖期の移動の途中に宇佐と大分で観察記録があるのみ。宮崎県霧島が生息南限である。生息地が祖母傾山系の標高の高いところに限定されており、生息数はかなり少ない。
備考	

ホオアカ

学名	Emberiza fucata Pallas,1776	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ホオジロ科	
科名学名	Emberizidae	
カテゴリー	大分県：準(NT)	環境省：掲載なし



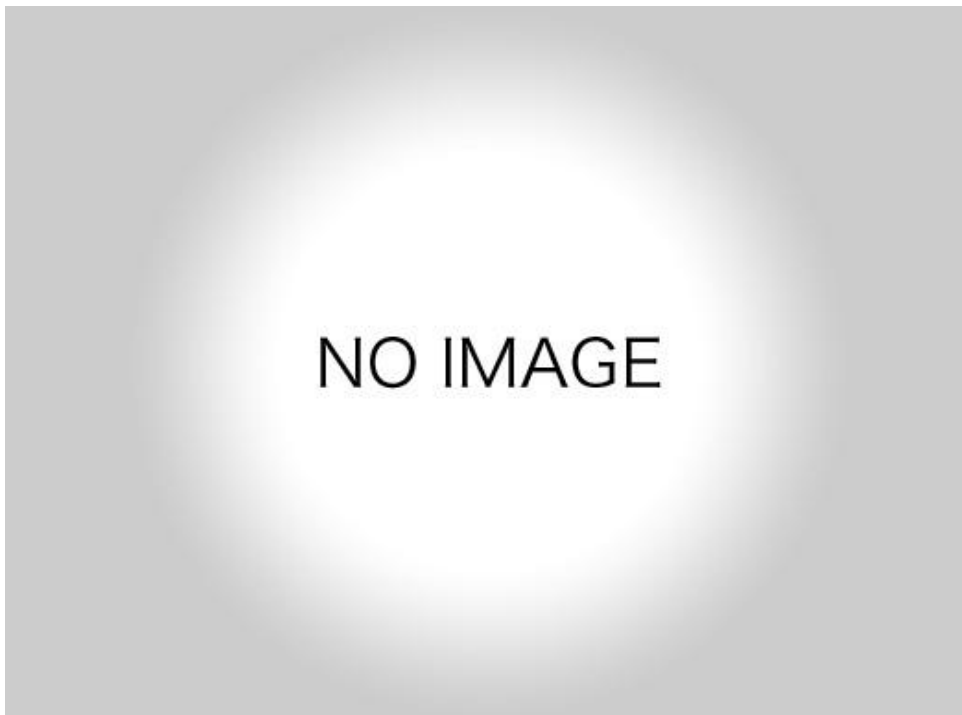
[選定理由]

阿蘇外輪山について久住、飯田高原が繁殖の準南限である。

県内分布	久住、飯田高原、猪の瀬戸、日出生台など高地の草原で繁殖。県下全域で冬鳥。
分布域	北海道、本州、四国、九州で夏鳥。全国の平地で冬鳥。
世界的分布	朝鮮半島、中国東北部・南部で繁殖、中国南部で越冬。
生息環境	灌木のある草原で地上や低木に営巣する。冬は耕地や河原にも生息する。昆虫類や種子などを食べる。
現状	県内では、繁殖期に高地の草原に生息する。また冬は県内全域の平地でも見られる。
備考	

コジュリン

学名	Emberiza yessoensis (Swinhoe,1874)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	ホオジロ科	
科名学名	Emberizidae	
カテゴリー	大分県：情報不足 (DD)	環境省：II (VU)



[選定理由]

県内分布	平地～山地の草原に冬鳥
分布域	本州中北部, 九州(熊本)で留鳥あるいは夏鳥, 本州南西部, 四国, 九州では冬鳥。
世界的分布	種コジュリンは, 中国, ウスリーで繁殖, 朝鮮半島, 中国中部で越冬。亜種コジュリン(<i>E. y. yessoensis</i>)は, 日本固有亜種。
生息環境	草丈の低い草原に生息し, 昆虫や種子を食する。
現 状	県内では, 香々地と大分の2回の観察記録があるのみである。全国的にも繁殖分布は局地的で, 生息数はかなり少ない。阿蘇が繁殖南限である。
備 考	国際自然保護連合: 準, 希少鳥獣。

ホシガラス

学名	Nucifraga caryocatactes (Linnaeus,1758)	
目名	スズメ目	
目名学名	PASSERIFORMES	
科名	カラス科	
科名学名	Corvidae	
カテゴリー	大分県：Ⅱ (VU)	環境省：掲載なし



【選定理由】

日本の繁殖のほぼ南限で、渡りをしないので、地域個体群として生息地が孤立している。生息個体数はかなり少ない。

県内分布	祖母傾山系に生息する留鳥。
分布域	北海道, 本州, 四国, 九州(熊本, 大分, 宮崎)で留鳥。
世界的分布	中国中部・北部・東北部, シベリア, 朝鮮半島, 台湾に留鳥。
生息環境	亜高山帯から高山帯のハイマツ・ブナ帯に留鳥。冬はやや低い場所にも漂行する。ハイマツやオオシラビソなどの種子を食べる。
現状	標高の高いところにしか生息しないので、分布が局限, 隔離されている。個体数も少ない
備考	亜種ホシガラス(N. c. japonica)は日本固有亜種。九州中央山地が繁殖南限。

沖黒島のオオミズナギドリ繁殖個体群

学名	Calonectris leucomelas (Temminck, 1835)	
目名	ミズナギドリ目	
目名学名	PROCELLARIIFORMES	
科名	ミズナギドリ科	
科名学名	Procellariidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし

NO IMAGE

[選定理由]

全国に37しかない集団繁殖地のひとつが蒲江町沖黒島にある。

県内分布	蒲江町沖黒島で繁殖。非繁殖期には全域の海上で比較的普通に観察される。
分布域	北海道から琉球諸島までの周辺の島で集団繁殖。
世界的分布	台湾、中国、朝鮮半島の周辺の島で集団繁殖。非繁殖期には、西太平洋一帯の海上に分布する。
生息環境	無人島の地上に穴を掘り繁殖する。繁殖期以外は、地上に降りることがない海洋性の鳥である。
現状	沖黒島では数百羽が集団繁殖する。営巣環境は、近年ほとんど変化していない。
備考	日本でのおもな繁殖地のうち6ヶ所が天然記念物に指定されている。台風などで内陸部に落鳥することがある。

沖黒島のカワウ繁殖個体群

学名	Phalacrocorax carbo (Linnaeus,1758)	
目名	ペリカン目	
目名学名	PELECANIFORMES	
科名	ウ科	
科名学名	Phalacrocoracidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



【選定理由】

本州以南の数十か所で繁殖するが、そのひとつが蒲江町沖黒島で、全国的にカワウの繁殖地と生息数が減少した1980年ころにも、九州でただ1か所残った繁殖地である、

県内分布	蒲江町沖黒島で繁殖。全域の河川、内湾で冬鳥。
分布域	本州、四国、九州の数十か所だけで繁殖。本州以南の河川、内湾で冬鳥。
世界的分布	朝鮮半島、中国、サハリンで繁殖。中国中部以南で冬鳥。
生息環境	樹上で集団繁殖する。大きな河川、内湾で集団で潜水して魚を捕食する。
現状	沖黒島で数百羽が集団繁殖する。冬には本州から渡ってきた鳥が加わって県下で10,000羽を越す数になる。琵琶湖などでは、カワウが増えすぎて困っているが、大分では生息数の増加は見られない。
備考	亜種カワウ(P. c. hanedae)は、日本だけで繁殖する固有亜種である。繁殖期間中は、県南全域で採餌環境を保全する必要がある。

大分市のオオバン繁殖個体群

学名	Fulica atra Linnaeus,1758	
目名	ツル目	
目名学名	GRUIFORMES	
科名	クイナ科	
科名学名	Rallidae	
カテゴリー	大分県：地域個体群(LP)	環境省：掲載なし



[選定理由]

西日本では繁殖地は局地的で、大分は繁殖南限である。県内の繁殖地は、近接した2か所だけであり、繁殖個体数は数十羽である。

県内分布	大分市の埋立地で繁殖。県内全域の湿地に冬鳥。
分布域	北海道では夏鳥、本州、九州(福岡、大分)では局地的に繁殖。本州中西部、四国、九州、琉球諸島で冬鳥。
世界的分布	中国北部、ウスリー、サハリン、シベリアで繁殖、朝鮮半島南部、中国南部以南で越冬。
生息環境	平地から低山の湖沼や河川、蓮田に生息し、アシやガマの根元に営巣する。雑食性で、開けた水面に出て、小魚、昆虫や水草の根や葉を食べる。
現状	大分市の2か所の埋立地の人工池で、毎年数十番が繁殖している。池が、人為により、少しずつ小さくなっている。
備考	

高島のウミネコ繁殖個体群

学名	Larus crassirostris Vieillot, 1818	
目名	チドリ目	
目名学名	CHARADRIIFORMES	
科名	カモメ科	
科名学名	Laridae	
カテゴリー	大分県：地域個体群 (LP)	環境省：掲載なし



[選定理由]

佐賀関町高島は、全国で20数か所しかない集団繁殖地のひとつである。

県内分布	佐賀関町高島で繁殖，全域の海岸部および河川下流域でふつうに見られる留鳥または冬鳥。
分布域	北海道，本州，四国，九州の周辺の20数か所の離島で集団繁殖，繁殖地周辺では留鳥，それ以外の海上，河川下流域では冬鳥。
世界的分布	朝鮮半島，中国沿岸，ウスリー，サハリン，クリルの限られた繁殖地だけで繁殖。冬も極東地域だけに生息。
生息環境	限られた無人島の斜面に営巣する。海岸，河川下流域，港，海上で主に小魚を食べる。
現状	佐賀関町高島で数千羽が集団繁殖するが，釣り人による妨害などがある。
備考	地域指定県指定天然記念物，鹿児島県甬島につぐ繁殖準南限である。